# RT56v

ブロードバンドVoIPルータ



## 設定マニュアル

本機をお使いになる前に本書をよくお読みになり、
正しく設置や設定を行ってください。本書中の警告や
注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。

はじめにお読みください

# 付属マニュアルのご案内

本機の機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。

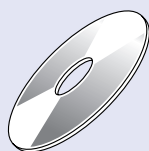
## 設定マニュアル（本書）

本機を使い始めるときに読むマニュアルです。
設置のしかたや設定のしかただけでなく、CATV/ADSLなどのブロードバンドルータとしての基本的な使いかたについて説明しています。

## 活用マニュアル

本機の機能を活用するために読むマニュアルです。
電話やブロードバンドルータとしての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。

## 困ったときは

本機のトラブル発生時の対策や、サポート窓口のご案内について、まとめて説明しています。

## コマンドリファレンス（PDF形式）

コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。
本機のコンソールコマンドについて解説しています。

マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください。詳しくは活用マニュアル（別冊）の「Acrobat Readerで説明書を読む」（122ページ）をご覧ください。

# 重要なお知らせ

## プロバイダ契約について

本機をルータとしてお使いになる前（または新たにプロバイダ契約を行う前）に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。**プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。**
禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

## セキュリティ対策と本機のファイアウォール機能について

インターネットに接続すると、世界中のホームページを閲覧したり、電子メールで自由に情報を交換したりすることができ、とても便利です。しかし同時に、お使いのパソコンに対する世界中からの不正アクセスの危険にさらされることになります。
特にインターネットに常時接続したり、サーバなどを公開したりする場合には、その危険性を理解して、必要なセキュリティ対策を行う必要があります。本機にはそのためのファイアウォール機能を装備していますが、不正アクセスの手段や抜け道（セキュリティホール）は、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。**インターネット接続には、常に危険がともなうことをご理解いただくとともに、常に新しい情報を入手し、自己責任でセキュリティ対策を行うことを強くおすすめいたします。**

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 詳細な技術情報について

本機を使いこなすためには、インターネットやネットワークに関する詳しい知識が必要となる場合があります。付属のマニュアルではこれらの情報について解説しておりませんので、詳しくは市販の解説書などを参考にしてください。

RT56vは「外国為替および外国貿易管理法」に基づいて規制される戦略物資（または役務）に該当します。このため、日本国外への持ち出しには、日本国政府の事前の許可が必要となる場合があります。

# 目次



## 第1章
## ルータを準備する



## 第2章
## CATV(ケーブルテレビ)で常時接続する



## 第3章
## ADSL接続する



## 第4章
## フレッツ·ADSL接続する

## 第5章
# Bフレッツ接続する



## 第6章
# その他の情報

# 本書の表記について

## マークの意味

本書では、本機を安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示していますので、必ずお読みください。

**⚠警告**

人体に危険を及ぼしたり、装置に大きな損害を与える可能性があることを示しています。 必ず守ってください。

**⚠注意**

機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。 十分注意してください。

## 略称について

本書ではそれぞれの製品について、以下のように記載しています。

- YAMAHA RT56v:本機
- Microsoft® Windows®:Windows
- Microsoft® Windows 95®:Windows95
- Microsoft® Windows 98®:Windows98
- Microsoft® Windows 98 Second Edition®:Windows98SE
- Microsoft® Windows NT®:WindowsNT
- Microsoft® Windows 2000®:Windows2000
- Microsoft® Windows Millennium Edition®:WindowsMe
- Microsoft® Windows XP® :WindowsXP
- 10BASE-T(100BASE-TX)ケーブル:LANケーブル

## 設定例について

本書に記載されているIPアドレスやドメイン名、URLなどの設定例は、説明のためのものです。 実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

## 商標について

- イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- Apple 、Macintosh、MacOSは米国Apple社の登録商標および商標です。
- Microsoft 、Windowsは米国Microsoft社の米国およびその他の国における登録商標です。
- Adobe 、Acrobatは米国AdobeSystems社の登録商標です。
- 本製品は、RSA Security Inc.のRSA® BSAFE™ WirelessCoreソフトウェアを搭載しております。
  RSA はRSA Security Inc.の登録商標です。 BSAFEはRSA Security Inc.の米国及びその他の国における登録商標です。 RSA Security Inc. All rights reserved.

# 安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

## 警告

- 本機は家庭および一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するようには設計されていません。誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、およびACアダプタや電源コードが発熱しているときは、直ちにACアダプタをコンセントから抜いてください。 そのまま使用を続けると、火災や感電のおそれがあります。
- 濡れた手でACアダプタや電源コードを触らないでください。 感電や故障のおそれがあります。
- 電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。 火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ACアダプタは必ず本機に付属のもの（P10V1.2A）をお使いください。 他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 付属のACアダプタは日本国内用AC100V（50/60Hz）の電源専用です。 他の電源で使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 安全のため、ACアダプタを容易に取り外すことができるようなコンセントに接続してください。
- 本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。 内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- 本機を分解したり、改造したりしないでください。 火災や感電、故障の原因となります。
- 本機の通風口を塞いだ状態で使用しないでください。 火災や感電、故障の原因となります。
- 電源を入れたまま、ケーブル類を接続しないでください。 感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- アナログポートに指や異物を入れないでください。 感電や故障、ショートの原因となります。

## ⚠注意

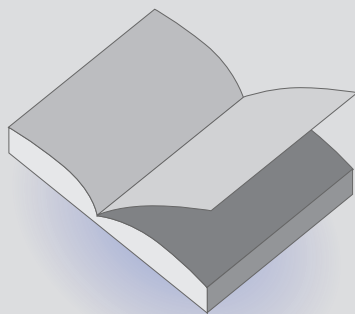
- 直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。 故障や動作不良の原因となります。
- 極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。 故障や動作不良の原因となります。 結露が発生した場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。 故障や動作不良の原因となります。
- 本機を他の機器と重ねて置かないでください。 熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、ACアダプタやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。 落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。 感電防止やノイズ防止の効果があります。 アース接続は必ず、ACアダプタをコンセントにつなぐ前に行ってください。 また、アース接続をはずす場合は、必ずACアダプタをコンセントから切り離してから行ってください。
- 本機を修理または移動などの理由により輸送する場合には、必ず本機の設定を保存するようにしてください。

# 使用上のご注意

- メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、その度に通信料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- 自動接続が設定されている場合に、「かんたん設定ページ」の[ネットボランチホームページ]をクリックするとインターネットへ自動接続します。それに伴った通信料金やプロバイダ接続料金がかかりますので、あらかじめご理解いただいた上で、この機能をご使用ください。
- 電話機を使った設定やインターネット電話機能など、本機と電話機間はトーン(プッシュ)で信号がやり取りされます。そのため、停電などによって本機の電源供給が停止すると、トーン(プッシュ)回線用に動作するように設定された電話機がダイヤル回線と直結されることになります。この状態では、お使いの電話機によっては110や119などの緊急電話も含めて、外線通話できない場合があります。
  お使いの電話機にダイヤル／トーン切り換えスイッチがある場合は、「ダイヤル」に切り換えて通話してください。
- TEL1ポート以外のTELポートに接続した電話機で外線通話中に停電が発生すると、停電時はTEL1ポートを優先する仕様のため、TEL1ポートに接続した電話機に外線通話が切り替わります。
- 本機のアナログポートにはモデムあるいはFAXを接続して使用することができますが、インターネット電話機能を使用して通信することはできません。
- 本機のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本機の設置場所、向きを変えてみてください。
- 本機を譲渡する際は、マニュアル類も同時に譲渡してください。
- 本機を廃棄する場合には不燃物ゴミとして廃棄してください。または、お住まいの自治体の指示に従ってください。

Getting Started

第1章

# ルータを準備する

ネットボランチRT56vの主な特徴や、必要な別売り品などを説明します。

# ネットボランチRT56vでできること

本機はCATV／ADSL接続、光ファイバ接続（Bフレッツ）まで、さまざまなインターネット接続方法に対応できるブロードバンドルータです。 より高速な回線で接続したいときにも、本機の設定変更のみで対応できます。

## ブロードバンド対応

CATVやADSL、光ファイバなどのブロードバンド回線用モデムに接続できるWANポートを装備しています。

## ファイアウォール機能

静的／動的の2種類のフィルタによるパケットフィルタリング機能で、外部からの不正アクセスに対してセキュリティを強化できます。 不正アクセスや攻撃を検出した場合にお知らせする、不正アクセス検知機能も搭載しています。

## インターネット電話機能

通話の相手先もインターネット電話機能を持ったネットボランチシリーズルータを使用している場合には、インターネット経由の会話（インターネット電話）を楽しめます。 インターネット経由で通話するため、プロバイダへの通信料以外の通話料金はかかりません。 インターネット経由で通話するため、プロバイダへの通信料以外の通話料金はかかりません。
また、本機はUPnP（ユニバーサル·プラグ·アンド·プレイ）に対応しているため、Windows MessengerやMSN Messengerを利用した音声チャットも楽しめます。

## PPTPによる仮想プライベートネットワーク構築

本機はPPTP（Point to Point Tunneling Protocol）に対応しているため、インターネット（ブロードバンド）回線を利用した仮想プライベートネットワーク（VPN）を構築する場合でも、より安全にデータをやり取りできます。
LANとLANをPPTP方式で接続するだけでなく（PPTP-LAN間接続）、外出先からPPTP方式でLANにリモートアクセスでき、便利です。

## メール着信確認／メール着信転送機能

登録したメールアドレスへのメール着信を通知するメール着信確認機能を搭載しているため、パソコンの電源を入れなくても、メール着信の有無を確認できます。 メール着信を確認するだけでなく、着信したメールを携帯電話やPHSの電子メールなどの他のメールアドレスに転送できる、メール着信転送機能も搭載しています。

## かんたん設定

付属のユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」でパソコンのネットワーク設定を自動的に行えます。本機は設定のためのホームページ「RT56vかんたん設定ページ」を内蔵しているため、本機の基本的な設定はパソコンのWebブラウザで変更できます。

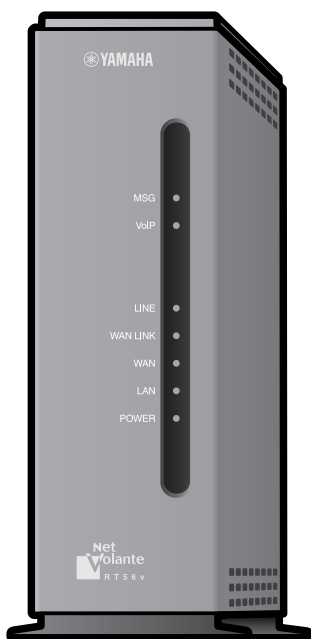
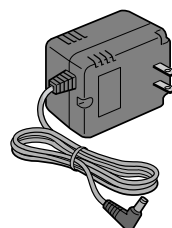
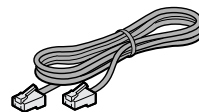
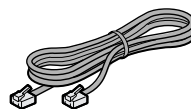
## 充実のNetVolanteホームページ

NetVolanteシリーズのホームページ(http://NetVolante.jp/)では、NetVolanteシリーズの最新情報や機能の設定方法、FAQ、リビジョンアッププログラムなど、NetVolanteを活用するための情報を満載しています。本機の「かんたん設定ページ」画面左上の[ネットボランチホームページ]をクリックするだけでアクセスできます。
また、ヤマハルータRTシリーズホームページ(http://www.rtpro.yamaha.co.jp/)では、RTシリーズルータを使った高度な活用例や詳しい解説がご覧いただけます。

## その他多機能ルータとして便利な機能を装備

- 次世代インターネット・プロトコルの「IPv6」に対応しています。
- TELポートは3ポート装備しているので、今まで使っていた電話やFAX、モデムなどを接続できます。また、Lモードにも対応しています。
- ご購入後に新しい機能が追加されても、本機内蔵ソフトウェアのリビジョンアップ(バージョンアップ)を行うことで、最新の機能が利用できます。

# 付属品を確認する

本機をお使いになる前に、同梱品がすべて揃っているかご確認ください。 万一不足や破損しているものがある場合は、お買い上げの販売店へご連絡ください。

**RT56v本体**

**ACアダプタ（P10V1.2A）**

**LANケーブル**

**モジュラーケーブル**

**CD-ROM**
**設定マニュアル（本書）**
**活用マニュアル**
**困ったときは**
**アンケートはがき**
**保証書**

# LANカード／HUBを用意する

本機をLAN接続で使う場合は、パソコンにLANポート（10BASE-Tまたは100BASE-TXポート）が必要です。お使いのパソコンにLANポートがない場合は、本機の設置を始める前に、10BASE-T（100BASE-TX）対応のLANボードまたはLANカード（PCカード）を取り付けて、LANポートを増設してください。
本機を設置する前に、あらかじめLANボードやLANカードの取扱説明書をご覧になり、正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、あらかじめLANボードやLANカードの問題を解決してから、本機を設置してください。

**本機に5台以上のパソコンをLANケーブルで接続したいときは**

市販の10BASE-T（100BASE-TX）対応のHUBまたはスイッチングHUBが必要になります。

## デスクトップ型やタワー型パソコンの場合

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合は、拡張スロットにLANボードを取り付けます。拡張スロットには、PCIやISAなどの種類があるので、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧の上、対応したLANボードを取り付けてください。

**購入時のチェックポイント**

- 対応OS（Windows95/98/Me/2000/XP、MacOSなど）
- スロットの種類（PCI、ISA、Cバス、Nubusなど）
- コネクタの種類（10BASE-Tまたは10BASE-T/100BASE-TXのもの）

## ノート型パソコンの場合

ノート型パソコンの場合は、PCカードスロットにLANカードを取り付けます。
PCカードスロットの規格や添付ソフトに種類があるので、お使いのパソコンに対応したPCカード型LANカードを取り付けてください。

**購入時のチェックポイント**

- 対応OS（Windows95/98/Me/2000/XP、MacOSなど）
- PCカードスロットの種類（CardBus、PCMCIA Type I/Type II/Type III）
- コネクタの種類（10BASE-Tまたは10BASE-T/100BASE-TXのもの）

# インターネットへの接続方法を選ぶ

本機はさまざまな回線接続方法に対応しています。 接続方法によって必要な回線契約やプロバイダ(インターネット接続業者)との接続契約が異なりますので、接続方法に合わせて説明をご覧ください。

CATVで
インターネットへ常時接続する →17ページ

ADSLで
インターネットへ常時接続する →43ページ

フレッツ・ADSLで
インターネットへ常時接続する →69ページ

Bフレッツで
インターネットへ常時接続する →97ページ

PPPoE方式ADSL専用線で
インターネットへ常時接続する
→「活用マニュアル」91ページ

**ご注意**

- プロバイダ契約を解除／変更した場合は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないままお使いになると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をルータとしてお使いになる前(または新たにプロバイダ契約を行う前)に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。 プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。 契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。 禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

# 第2章 CATV（ケーブルテレビ）で常時接続する

CATV接続は、電話回線を使わずにCATVのアンテナ線でインターネットへ常時接続する方法です。

# CATV（ケーブルテレビ）接続とは?



CATV接続は、電話回線を使わずにCATVのアンテナ線でインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域にインターネット接続サービスを提供しているCATV業者があり、以下の条件を満たしていれば利用できます。お申し込みについては、お住まいの地域のCATV業者にお問い合わせください。

**ご注意**

- 本機に接続するケーブルモデムを別途ご用意いただく必要があります。詳しくはCATV業者にお問い合わせください。
- CATVでインターネットに接続する場合、本機をCATVのアンテナ線に直接接続することはできません。必ずケーブルモデムに接続してください。

## 必要な条件

- お住まいの地域にCATV業者があり、インターネット接続サービスを提供していること。
- お住まいの建物のアンテナ設備が、CATVインターネット接続に対応できること。
- CATV業者がルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

## 必要な契約

- 「ルータを使用した複数台接続可能なCATVインターネット接続」契約（CATV業者と契約）

### 設定を行うためには、CATV業者から通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- IPアドレス
- ネットマスク
- デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

**ご注意**

CATV業者から通知されるIPアドレスが下記のプライベートIPアドレスの範囲に含まれる時は、本機のインターネット電話機能を使用できません。また、ファイアウォールでのセキュリティフィルタの設定変更が必要な場合があります（41ページ）。

- 10.0.0.0～10.255.255.255
- 172.16.0.0～172.31.255.255
- 192.168.0.0～192.168.255.255

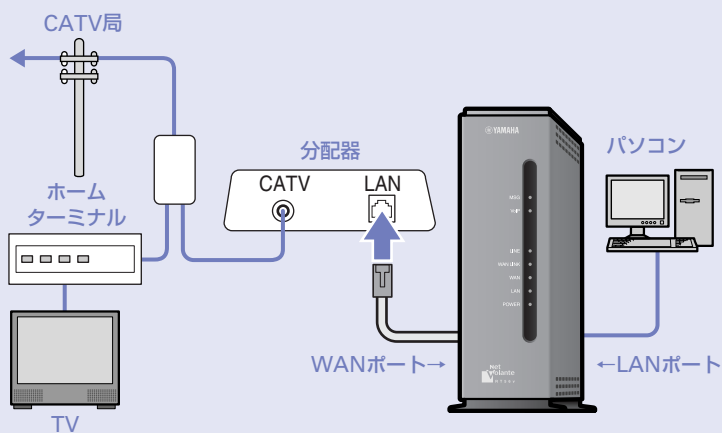
インターネット
CATV業者
CATV
アンテナ線
本機設置場所

準備1

# ルータにCATV回線を接続する

CATVで接続する場合は、本機のWANポートに以下の方法でケーブルモデムを接続します。 ケーブルモデムの設置は、ご自分で設置する場合と、業者が行う場合とがあります。 各業者の指示に従って設置してください。

**ご注意**

CATVでインターネットに接続する場合、本機をCATVのアンテナ線に直接接続することはできません。 必ず、ケーブルモデムに接続してください。

# 接続する

**必要なもの**

LANケーブル:本機のWANポートとケーブルモデムを接続します。
ケーブルモデムの種類に合わせて、ストレートタイプまたはクロスタイプのLANケーブルをご用意ください(ケーブルモデムに付属している場合もあります)。

**ご注意**

ケーブルモデムとパソコンをストレートケーブルで接続するように指定されている場合は、ケーブルモデムと本機のWANポートもストレートケーブルで接続します。 逆に、ケーブルモデムとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、クロスケーブルで本機と接続してください。

ケーブルモデムのLANポートと、本機のWANポートをLANケーブルで接続する。

# 準備2

# ルータに一般回線と電話機を接続する

一般回線(アナログ回線)と電話機を本機に接続すると、本機に接続したアナログ電話機でインターネット電話機能を利用できるだけでなく、通常の通話も利用できるようになります。 電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器は、本機のTELポートに3台まで接続できます。 TEL1ポートは停電時にも通話できますので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

**ご注意**

- 一般回線(アナログ回線)を別途接続しない場合は、TELポート間の内線通話や本機のインターネット電話機能以外で、TELポートにアナログ機器(電話機、FAX、モデムなど)を接続して使うことはできません。
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。 分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。

**ヒント**

インターネット電話機能について詳しくは、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 インターネット電話機能を使う」(62ページ)をご覧ください。

**必要なもの**

モジュラーケーブル:壁のモジュラージャックと本機のLINEポートを接続します。

## 1

**壁のモジュラージャックと本機のLINEポートを、モジュラーケーブルで接続する。**

## 2

**電話機を本機のTELポートに接続する。**

# 準備3

# ルータにパソコンを接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。 本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。 5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。



**4台までのパソコンを接続する場合の例**

**5台以上のパソコンを接続する場合の例**

**ご注意**

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。 設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

**必要なもの**

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。 本機にはストレートタイプのケーブル（3m）が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB（またはスイッチングHUBなど）をご用意ください。

### パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

**Ⓐ パソコンを本機に直接接続する例**

本機のLANポートに接続します。

**Ⓑ 5台以上のパソコンを接続する例**

HUBの場合は、UPLINK（カスケード）ポートを接続します。

**Ⓒ HUBにUPLINK（カスケード）ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は**

HUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続してください。

**ご注意**

HUBは10BASE-Tの場合4段（階層）まで、10/100BASE-TX混在の場合2段（階層）までしかUPLINK（カスケード）接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

# 準備4

# 電源を接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ（P10V1.2A）をコンセントに接続します。

**ご注意**

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

**必要なもの**

- **アースコード**:設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**:本機に付属のACアダプタ（P10V1.2A）をご使用ください。

## 1

アース端子のネジを　ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。

## 2

付属のACアダプタ（P10V1.2A）のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。

次のページにつづく→

## 3

### アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

しばらくするとブザーが鳴り、本機の電源が入ります。

**ブザーが鳴らない場合は**

本機をお買い上げになった販売店にご連絡ください。

**ACアダプタを取りはずす際は**

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

## 4

### パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

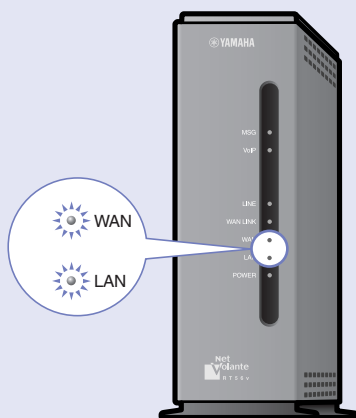
本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

**LANランプが点灯または点滅しない場合は**

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

**ご注意**

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。 その場合は、「準備6 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」（29ページ）および「準備7 パソコンのネットワーク設定を変更する」（31ページ）の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

準備5

# 電話回線に合わせて設定を変更する

「準備2 ルータに一般回線と電話機を接続する」（22ページ）で本機に接続した電話回線の種類に合わせて、TELポートに接続したプッシュボタン式電話機で本機の設定を変更します。

ご注意

- 電話機から設定するときは、必ず電話機をトーン（プッシュ）に切り替えてから操作してください。パルス（ダイヤル）方式だけでトーンの機能がない電話機からは、設定できません。
- 電話機から設定すると、設定内容は本機の内蔵メモリに保存されますので、本機の電源を切っても内容は消えません。



## 1

**本機の電源が入っていることを確認する。**

## 2

**TEL1ポートに接続した電話機の受話器を上げて、ツーという発信音を確認する。**

ご注意

TEL2、TEL3ポートに接続した電話機は、本機の電源を入れないと通話できません。

**発信音が聞こえない場合は**

以下のことを確認してください。

- 電話機が本機のTEL1ポートに正しく接続されていること
- 壁のモジュラージャックと本機のLINEポートが正しく接続されていること

## 3

**電話機のボタンを押して、お使いの回線の種類を指定する。**

- ダイヤル回線（10pps）の場合： ＊ # 2 0 1 1 #
- ダイヤル回線（20pps）の場合： ＊ # 2 0 1 2 #
- プッシュ回線の場合： ＊ # 2 0 1 3 #

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

次のページにつづく→

**「ピー、ピー」と聞こえたときは**

設定内容が不適切だったり、設定が正常に変更されていません。
いったん受話器を置いて、もう1度手順2から操作をやり直してください。

**回線の種類がわからない場合は**

NTTとの電話回線契約書類をご覧ください。
それでもわからない場合は、NTTまでお問い合わせください(116)。

**4**

**試しに177などへ電話をかけてみる。**

**5**

**受話器を置いて、電話を切る。**



## ダイヤル回線をお使いの場合のご注意

電話機を使った設定やインターネット電話機能など、本機と電話機間はトーン(プッシュ)で信号がやり取りされます。そのため、停電などによって本機の電源供給が停止すると、トーン(プッシュ)回線用に動作するように設定された電話機がダイヤル回線と直結されることになります。この状態では、お使いの電話機によっては110や119などの緊急電話も含めて、外線通話できない場合があります。
お使いの電話機にダイヤル/トーン切り換えスイッチがある場合は、「ダイヤル」に切り換えて通話してください。

**ヒント**

電話機で電話番号をダイヤルする前に、常に「トーン」ボタン(通常は ⊛ ボタン)を押してからダイヤルするようにすることで、停電時の問題を回避できます。
「トーン」ボタンはお使いの電話機によって異なりますので、詳しくはお使いの電話機の取扱説明書をご覧ください。

## 準備6

# パソコンに付属ソフトウェアをインストールする

パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行うための「RT56vパソコンセットアップ」が、本機の付属CD-ROMに収録されています。
「RT56vパソコンセットアップ」は簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。
ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。

**ご注意**

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者（Administrators）でログインしてから、インストールを行ってください。

# Windows 95/98/Me/2000/XPの場合

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。 設定の前にインストールしてください。

**ご注意**

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］で削除（アンインストール）してください。

## 1

**付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、［InstPCSU］アイコンをダブルクリックする。**

CD-ROMの内容が自動で表示されない場合は、［マイコンピュータ］のCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

## 2

**画面の指示に従って操作する。**

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

## 3

**インストールが終わったら、［完了］をクリックする。**

これで、「RT56vパソコンセットアップ」のインストールは完了です。

**［完了］が表示されない場合は**

前面に表示されている画面を閉じるか、背景をクリックしてインストール画面を表示してください。

# MacOSの場合

付属のCD-ROMからRT56vパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

**ご注意**

ユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降（MacOS X（Classic環境を含む）には対応していません。）
- OpenTransport1.2以降

準備7

# パソコンのネットワーク設定を変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。 インストールした「RT56vパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。

複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

ご注意

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降（Mac OS Xを除く）の環境で、RT56vパソコンセットアップを使って設定するためのものです。 上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください（124ページ）。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。 正しく動作していないと、設定が行えません。 正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。 設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RT56vパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。 その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください（124ページ）。

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。 他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

## 1

### RT56vパソコンセットアップを起動する。

**Ⓐ Windows95/98/Me/2000/XPの場合**

［スタート］ボタンをクリックして、［プログラム］－［RT56vユーティリティ］－［RT56vパソコンセットアップ］をクリックする。

**Ⓑ Macintoshの場合**

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、［ユーティリティ］－［RT56vパソコンセットアップ］フォルダ内の、［パソコンセットアップ］アイコンをダブルクリックする。

Ⓐ

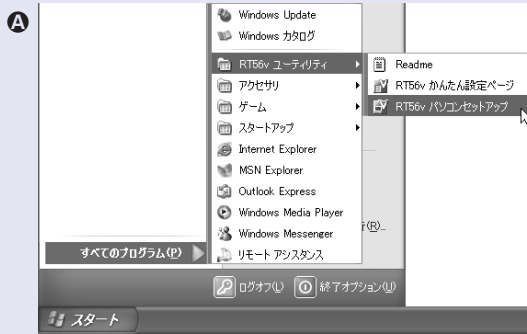
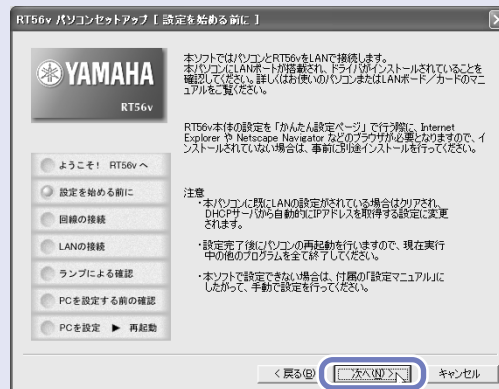
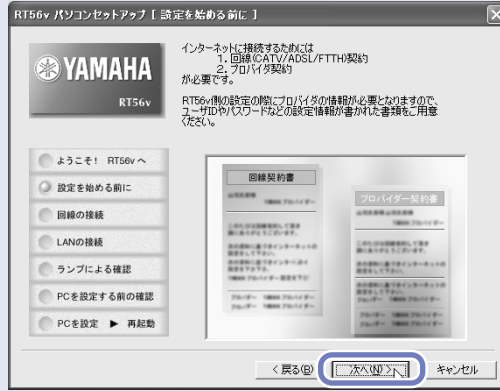
Ⓑ

## 2

### ［次へ］をクリックする。

## 3

### メッセージの内容を確認してから、［次へ］をクリックする。

## 4

プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、[次へ]をクリックする。

## 5

ケーブルモデムの電源が入っていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

## 6

本機のLINEポートに一般回線(アナログ回線)のモジュラーケーブルが接続されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備2 ルータに一般回線と電話機を接続する」(22ページ)をご覧ください。

次のページにつづく→

## 7

### 本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、［次へ］をクリックする。

問題がある場合は［キャンセル］をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備3 ルータにパソコンを接続する」（23ページ）をご覧ください。

## 8

### 本機の電源やランプの表示を確認してから、［次へ］をクリックする。

問題がある場合は［キャンセル］をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

## 9

### 設定内容を確認してから、［次へ］をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS（Windows、MacOS）のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。

**10**

**再起動のメッセージが表示された場合は、［再起動］をクリックする。**

パソコンが再起動します。

**11**

**「RT56vと接続」画面が表示されたら、［開く］をクリックする。**

Webブラウザが自動的に起動して、「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。

## 2台目以降のパソコンを設定している場合は

「RT56vと接続」が表示されたら、［中止］をクリックします。

# インターネットに接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で接続先を設定して、インターネットに接続します。

## 設定する前に

**ご注意**

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。 セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。 詳しくは「活用マニュアル」（別冊）の「第5章 ファイアウォール機能を使う」（47ページ）をご覧ください。

### プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、CATV業者から通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- IPアドレス
- ネットマスク
- デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

### Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します（お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます）。 Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

#### Windows95/98/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0以降を除く）のWebブラウザが必要です。 Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

**ご注意**

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。 この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

#### MacOSの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0を除く）のWebブラウザが必要です。 MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。 もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

# 設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。 他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RT56vパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。



## 1

**本機の電源が入っていることを確認する。**

## 2

**パソコンでWebブラウザを起動して、［ファイル］メニューから［開く］を選ぶ。**

## 3

**「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、［OK］をクリックする。**

初めて開いたときは、「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2度目以降は、手順5へ進んでください。

**ヒント**

「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。

## 4

**好みのパスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから［OK］をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。**

パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください（例：RT56v000、yamaha56など）。

**ご注意**

- 入力したパスワードが本機の管理パスワードになります。 本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要ですので、プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。
- 本機のパスワードについて詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「ルータのパスワードについて」（26ページ）をご覧ください。

次のページにつづく→

## 5

［ユーザー名］欄を空欄にしたまま、手順4で入力したパスワードを［パスワード］欄に入力して、［OK］をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

## 6

［新規登録］をクリックする。

## 7

［CATVまたはPPPoE方式を使用しないADSL接続設定］を選んでから、［次へ］をクリックする。

# 8

## CATV業者の設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

### プロバイダ名

接続先がわかるような名前を自由に入力してください。省略することもできます。

### WANポートのIPアドレス設定

WANポートに割り当てる、IPアドレスの取得方法を選びます。

- **自動で設定する:**自動取得する場合に選びます。
- **手動で設定する:**CATV業者から、IPアドレスが指定されている場合に選びます。

### IPアドレス設定

IPアドレスがCATV業者から指定されている場合に入力します。

### ネットマスク

ネットマスクがCATV業者から指定されている場合に入力します。

### デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

デフォルト・ゲートウェイ・アドレスがCATV業者から指定されている場合に入力します。

**ご注意**

本機の工場出荷状態では、LAN側のネットワークアドレスとして「192.168.0.0/24」を使用します。WAN側とLAN側のネットワークアドレスが同じ場合は、本機のIPアドレスを変更して、LAN側のネットワークアドレスを変更してください。詳しくは「活用マニュアル」(別冊)の「本機のIPアドレスを変更する」(80ページ)をご覧ください。

### DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選びます。
- **接続時に自動取得する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合に選びます。

### プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

### セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

次のページにつづく→

## 9

### 入力が終わったら、［登録］をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。

## 10

### ［プロバイダ接続管理］をクリックする。

## 11

### 左側に「接続中」が表示されていることを確認する。

**「接続中」が表示されているときは**

本機は正しく設定され、インターネットに接続しています。インターネット接続中は、本機のWAN LINKランプが点灯します。

**「接続中」が表示されないときは**

手順8で設定した、［WANポートのIPアドレス設定］（39ページ）の［IPアドレス］や［ネットマスク］の設定が間違っている可能性があります。［登録の修正］をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認してください。

## 12

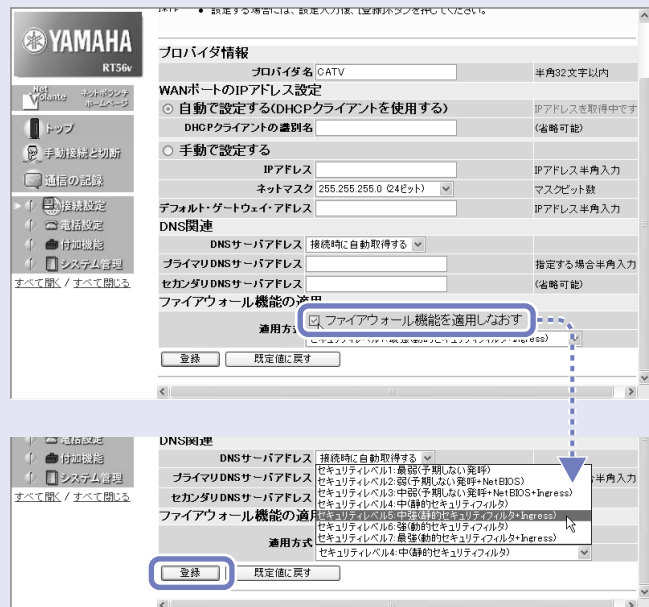
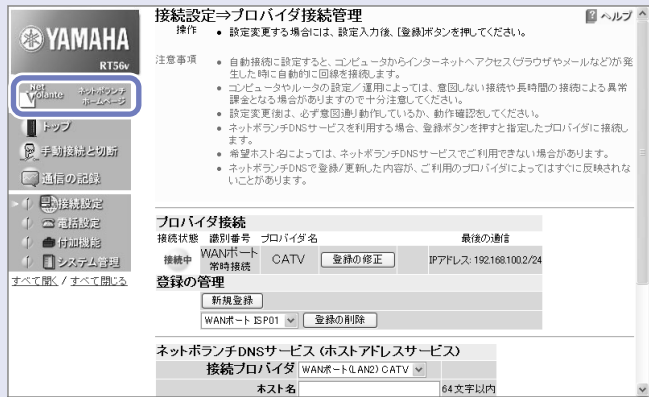
### 画面左上の［ネットボランチホームページ］をクリックする。

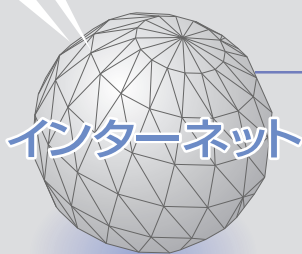
NetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は正しく行われています。

**これでインターネットへの接続設定は終了しました！**

本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。

### 表示されない場合は

- DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。［登録の修正］をクリックして、「基本設定」画面で設定内容をもう1度確認してください。
- 本機のファイアウォール機能によって接続が制限されている場合もあります。［登録の修正］をクリックして、「基本設定」画面の「ファイアウォール機能の適用」欄でセキュリティレベルを変更してください。

セキュリティレベルを変更する場合の操作

# 第3章 ADSL 接続する

ADSL接続は、一般回線の銅線を使い、ADSL業者のネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。

PPPoE方式を使用したADSL接続の場合は、「第4章 フレッツ・ADSL接続する」（69ページ）をご覧ください。

# ADSL接続とは?

ADSL接続は、一般回線の銅線を使い、ADSL業者のネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していて、以下の条件を満たしていれば利用できます。

ご注意

- 本機に接続するスプリッタやADSLモデムを、別途ご用意いただく必要があります。詳しくはADSL接続対応プロバイダにお問い合わせください。
- ADSLの特性上、お住まいの地域によってはADSL接続が利用できない場合があります。詳しくはADSL接続対応プロバイダにお問い合わせください。
- ADSLでインターネットに接続する場合、本機をADSLの一般回線に直接接続することはできません。必ずADSLモデムに接続してください。



## 必要な条件

- お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していること。
- 電話局からお宅までの配線が、ADSL接続に対応していること（ADSL接続の可否は、プロバイダにご確認ください）。
- LAN接続のADSLモデムが使えること（USB接続のADSLモデムは不可）。
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

## 必要な契約

- 一般回線契約（45ページ）
- 「ADSL接続（LAN接続タイプ）」契約（ADSL接続対応のプロバイダと契約）

### 設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID（アカウント名）*
- パスワード*

ご注意

*印のついている項目は、本機ではなく、本機と組み合わせて使用するADSLモデム側に設定してください。
詳しくは、プロバイダから支給された資料、またはお使いのADSLモデムの取扱説明書をご覧ください。

**解説**

## 回線契約についてのご注意

### ADSL接続をする場合は、<br>一般回線（アナログ回線）が必要です。

一般回線をお使いの場合は、そのまま利用できます。すでにISDN回線をお使いの場合は、一般回線に戻すか、または一般回線を別途増設する必要があります。
また回線環境によっては、ADSL接続が利用できない場合もあります。利用の可否については、ADSL接続対応プロバイダにご相談の上、回線環境をご確認ください。

# 準備1

# ルータにADSL回線を接続する

ADSLで接続する場合は、本機のWANポートに以下の方法でADSLモデムを接続します。 ADSLモデムの設置は、ご自分で設置する場合と、業者が行う場合とがあります。 各業者の指示に従って設置してください。

**ご注意**

ADSLでインターネットに接続する場合、本機をADSL用の一般回線に直接接続することはできません。 必ず、ADSLモデム（ADSL回線）に接続してください。

# 接続する

**必要なもの**

LANケーブル:本機のWANポートとADSLモデムを接続します。
ADSLモデムの種類に合わせて、ストレートタイプまたはクロスタイプのLANケーブルをご用意ください（ADSLモデムに付属している場合もあります）。

**ご注意**

ADSLモデムとパソコンをストレートケーブルで接続するように指定されている場合は、ADSLモデムと本機のWANポートもストレートケーブルで接続します。 逆に、ADSLモデムとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、クロスケーブルで本機と接続してください。

ADSLモデムのLANポートと、本機のWANポートをLANケーブルで接続する。

# 準備2

# ルータに一般回線と電話機を接続する

前ページで接続したADSL回線に加えて、スプリッタで分割した電話機用の一般回線と電話機を本機に接続すると、本機に接続したアナログ電話機でインターネット電話機能を利用できるだけでなく、通常の通話も利用できるようになります。 電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器は、本機のTELポートに3台まで接続できます。 TEL1ポートは停電時にも通話できますので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

**ご注意**

- 一般回線（アナログ回線）を別途接続しない場合は、TELポート間の内線通話や本機のインターネット電話機能以外で、TELポートにアナログ機器（電話機、FAX、モデムなど）を接続して使うことはできません。
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。 分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。

**ヒント**

インターネット電話機能について詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「第6章 インターネット電話機能を使う」（62ページ）をご覧ください。

# 接続する

**必要なもの**

モジュラーケーブル:壁のモジュラージャックと本機のLINEポートを接続します。

## 1

スプリッタのADSL回線を接続していない方のモジュラージャックと本機のLINEポートを、モジュラーケーブルで接続する。

## 2

電話機を本機のTELポートに接続する。

# 準備3

# ルータにパソコンを接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。 本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。 5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。



**4台までのパソコンを接続する場合の例**

**5台以上のパソコンを接続する場合の例**

**ご注意**

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。 設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

### 必要なもの

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。 本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

**Ⓐ パソコンを本機に直接接続する例**

本機のLANポートに接続します。

**Ⓑ 5台以上のパソコンを接続する例**

HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

**Ⓒ HUBにUPLINK（カスケード）ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は**

HUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続してください。

**ご注意**

HUBは10BASE-Tの場合4段（階層）まで、10/100BASE-TX混在の場合2段（階層）までしかUPLINK（カスケード）接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

# 準備4

# 電源を接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ(P10V1.2A)をコンセントに接続します。

**ご注意**

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。 他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。 感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。 ガス管などには絶対に接続しないでください。

**必要なもの**

- **アースコード**:設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**:本機に付属のACアダプタ(P10V1.2A)をご使用ください。



## 1

アース端子のネジを　ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。

## 2

付属のACアダプタ(P10V1.2A)のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。

## 3

### アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

しばらくするとブザーが鳴り、本機の電源が入ります。

**ブザーが鳴らない場合は**

本機をお買い上げになった販売店にご連絡ください。

**ACアダプタを取りはずす際は**

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

## 4

### パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

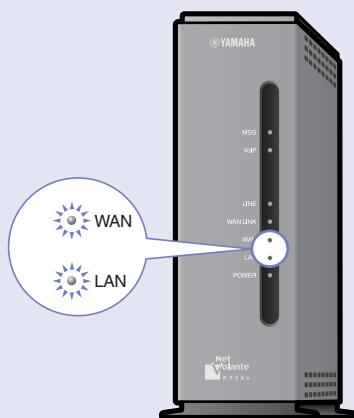
本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

**LANランプが点灯または点滅しない場合は**

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

**ご注意**

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、「準備6 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」（56ページ）および「準備7 パソコンのネットワーク設定を変更する」（58ページ）の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

## 準備5

# 電話回線に合わせて設定を変更する

「準備2 ルータに一般回線と電話機を接続する」(48ページ)で本機に接続した電話回線の種類に合わせて、TELポートに接続したプッシュボタン式電話機で本機の設定を変更します。

**ご注意**

- 電話機から設定するときは、必ず電話機をトーン(プッシュ)に切り替えてから操作してください。パルス(ダイヤル)方式だけでトーンの機能がない電話機からは、設定できません。
- 電話機から設定すると、設定内容は本機の内蔵メモリに保存されますので、本機の電源を切っても内容は消えません。

## 1

**本機の電源が入っていることを確認する。**

## 2

**TEL1ポートに接続した電話機の受話器を上げて、ツーという発信音を確認する。**

**ご注意**

TEL2、TEL3ポートに接続した電話機は、本機の電源を入れないと通話できません。

**発信音が聞こえない場合は**

以下のことを確認してください。

- 電話機が本機のTEL1ポートに正しく接続されていること
- 壁のモジュラージャックと本機のLINEポートが正しく接続されていること

## 3

**電話機のボタンを押して、お使いの回線の種類を指定する。**

- ダイヤル回線(10pps)の場合: ＊ ＃ 2 0 1 1 ＃
- ダイヤル回線(20pps)の場合: ＊ ＃ 2 0 1 2 ＃
- プッシュ回線の場合: ＊ ＃ 2 0 1 3 ＃

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

**「ピー、ピー」と聞こえたときは**

設定内容が不適切だったり、設定が正常に変更されていません。
いったん受話器を置いて、もう1度手順2から操作をやり直してください。

**回線の種類がわからない場合は**

NTTとの電話回線契約書類をご覧ください。
それでもわからない場合は、NTTまでお問い合わせください(116)。

**4**

試しに177などへ電話をかけてみる。

**5**

受話器を置いて、電話を切る。

## ダイヤル回線をお使いの場合のご注意

電話機を使った設定やインターネット電話機能など、本機と電話機間はトーン(プッシュ)で信号がやり取りされます。 そのため、停電などによって本機の電源供給が停止すると、トーン(プッシュ)回線用に動作するように設定された電話機がダイヤル回線と直結されることになります。この状態では、お使いの電話機によっては110や119などの緊急電話も含めて、外線通話できない場合があります。
お使いの電話機にダイヤル/トーン切り換えスイッチがある場合は、「ダイヤル」に切り換えて通話してください。

**ヒント**

電話機で電話番号をダイヤルする前に、常に「トーン」ボタン(通常は ＊ ボタン)を押してからダイヤルするようにすることで、停電時の問題を回避できます。
「トーン」ボタンはお使いの電話機によって異なりますので、詳しくはお使いの電話機の取扱説明書をご覧ください。

## 準備6

# パソコンに付属ソフトウェアをインストールする

パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行うための「RT56vパソコンセットアップ」が、本機の付属CD-ROMに収録されています。
「RT56vパソコンセットアップ」は簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。
ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。

**ご注意**

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者(Administrators)でログインしてから、インストールを行ってください。

# Windows 95/98/Me/2000/XPの場合

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。 設定の前にインストールしてください。

**ご注意**

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］で削除（アンインストール）してください。

## 1

**付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、［InstPCSU］アイコンをダブルクリックする。**

CD-ROMの内容が自動で表示されない場合は、［マイコンピュータ］のCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

## 2

**画面の指示に従って操作する。**

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

## 3

**インストールが終わったら、［完了］をクリックする。**

これで、「RT56vパソコンセットアップ」のインストールは完了です。

**［完了］が表示されない場合は**

前面に表示されている画面を閉じるか、背景をクリックしてインストール画面を表示してください。

# MacOSの場合

付属のCD-ROMからRT56vパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

**ご注意**

ユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降（MacOS X（Classic環境を含む）には対応していません。）
- OpenTransport1.2以降

準備7

# パソコンのネットワーク設定を変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。 インストールした「RT56vパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。
複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

**ご注意**

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降（Mac OS Xを除く）の環境で、RT56vパソコンセットアップを使って設定するためのものです。 上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください（124ページ）。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。 正しく動作していないと、設定が行えません。 正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。 設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RT56vパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。 その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください（124ページ）。

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。 他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

## 1

### RT56vパソコンセットアップを起動する。

**ⒶWindows95/98/Me/2000/XPの場合**

[スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]－[RT56vユーティリティ]－[RT56vパソコンセットアップ]をクリックする。

Ⓐ
**ⒷMacintoshの場合**

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ]－[RT56vパソコンセットアップ]フォルダ内の、[パソコンセットアップ]アイコンをダブルクリックする。

Ⓑ
## 2

### [次へ]をクリックする。

## 3

### メッセージの内容を確認してから、[次へ]をクリックする。

次のページにつづく→

## 4

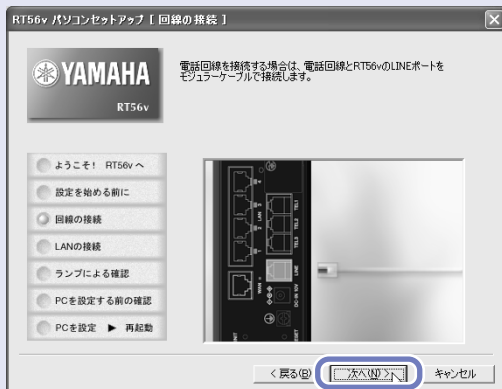
プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、[次へ]をクリックする。

## 5

ADSLモデムの電源が入っていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

## 6

本機のLINEポートに一般回線（アナログ回線）のモジュラーケーブルが接続されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備2 ルータに一般回線と電話機を接続する」(48ページ)をご覧ください。

## 7

### 本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備3 ルータにパソコンを接続する」(50ページ)をご覧ください。

## 8

### 本機の電源やランプの表示を確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

## 9

### 設定内容を確認してから、[次へ]をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS(Windows、MacOS)のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。

次のページにつづく→

## 10

**再起動のメッセージが表示された場合は、［再起動］をクリックする。**

パソコンが再起動します。

## 11

**「RT56vと接続」画面が表示されたら、［開く］をクリックする。**

Webブラウザが自動的に起動して、「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。

### 2台目以降のパソコンを設定している場合は

「RT56vと接続」が表示されたら、［中止］をクリックします。

# インターネットに接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で接続先を設定して、インターネットに接続します。

## 設定する前に

**ご注意**

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」（別冊）の「第5章 ファイアウォール機能を使う」（47ページ）をご覧ください。
- **使用するADSLモデムのIPアドレスが192.168.0.1/24に設定されている場合は、以下の設定を始める前に、本機のIPアドレスを変更（例：192.168.1.1など）する必要があります。** 本機のIPアドレスを変更する手順について詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「本機のIPアドレスを変更する」（80ページ）をご覧ください。

### プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID（アカウント名）
- パスワード

**ご注意**

ユーザIDとパスワードは、お使いのADSLモデムの取扱説明書などをご覧になり、ADSLモデムに設定してください。

### Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します（お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます）。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

#### Windows95/98/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0以降を除く）のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

**ご注意**

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

#### MacOSの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0を除く）のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

# 設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。 他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。
RT56vパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。



## 1

**本機の電源が入っていることを確認する。**

## 2

**パソコンでWebブラウザを起動して、［ファイル］メニューから［開く］を選ぶ。**

## 3

**「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、［OK］をクリックする。**

初めて開いたときは、「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2度目以降は、手順5へ進んでください。

**ヒント**

「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。

## 4

**好みのパスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから［OK］をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。**

パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください
（例：RT56v000、yamaha56など）。

**ご注意**

- 入力したパスワードが本機の管理パスワードになります。 本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要ですので、プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。
- 本機のパスワードについて詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「ルータのパスワードについて」（26ページ）をご覧ください。

**5**

［ユーザー名］欄を空欄にしたまま、手順4で入力したパスワードを［パスワード］欄に入力して、［OK］をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

**6**

［新規登録］をクリックする。

**7**

［CATVまたはPPPoE方式を使用しないADSL接続設定］を選んでから、［次へ］をクリックする。

次のページにつづく→

# 8

## プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

接続設定⇒新規登録⇒イーサネット(WANポート)によるプロバイダ接続 ヘルプ

操作 ・設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

プロバイダ情報

| | | |
|---|---|---|
| プロバイダ名 | ADSL | 半角32文字以内 |

WANポートのIPアドレス設定

◉ 自動で設定する(DHCPクライアントを使用する)

| | | |
|---|---|---|
| DHCPクライアントの識別名 | | (省略可能) |

○ 手動で設定する

| | | |
|---|---|---|
| IPアドレス | 00.00.00.00 | IPアドレス半角入力 |
| ネットマスク | 255.255.255.0 (24ビット) | マスクビット数 |
| デフォルト・ゲートウェイ・アドレス | 00.00.00.00 | IPアドレス半角入力 |

DNS関連

| | | |
|---|---|---|
| DNSサーバアドレス | IPアドレスを指定する | |
| プライマリDNSサーバアドレス | 00.00.00.00 | 指定する場合半角入力 |
| セカンダリDNSサーバアドレス | 00.00.00.00 | (省略可能) |

登録　既定値に戻す

### プロバイダ名

接続先がわかるような名前を自由に入力してください。省略することもできます。

### WANポートのIPアドレス設定

WANポートに割り当てる、IPアドレスの取得方法を選びます。

- **自動で設定する:**自動取得する場合に選びます。
- **手動で設定する:**プロバイダから、IPアドレスが指定されている場合に選びます。

### IPアドレス設定

IPアドレスがプロバイダから指定されている場合に入力します。

### ネットマスク

ネットマスクがプロバイダから指定されている場合に入力します。

### デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

デフォルト・ゲートウェイ・アドレスがプロバイダから指定されている場合に、入力します。

**ご注意**

本機の工場出荷状態では、LAN側のネットワークアドレスとして「192.168.0.0/24」を使用します。WAN側とLAN側のネットワークアドレスが同じ場合は、本機のIPアドレスを変更して、LAN側のネットワークアドレスを変更してください。詳しくは「活用マニュアル」(別冊)の「本機のIPアドレスを変更する」(80ページ)をご覧ください。

### DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選びます。
- **接続時に自動取得する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合に選びます。

### プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

### セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

## 9

### 入力が終わったら、［登録］をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。

## 10

### ［プロバイダ接続管理］をクリックする。

## 11

### 左側に「接続中」が表示されていることを確認する。

**「接続中」が表示されているときは**

本機は正しく設定され、インターネットに接続しています。インターネット接続中は、本機のWAN LINKランプが点灯します。

**「接続中」が表示されないときは**

手順8で設定した、［WANポートのIPアドレス設定］(66ページ)の［IPアドレス］や［ネットマスク］の設定が間違っている可能性があります。［登録の修正］をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認してください。

次のページにつづく→

第3章 ADSL接続する

## 12

### 画面左上の［ネットボランチホームページ］をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は正しく行われています。

**これでインターネットへの接続設定は終了しました！**

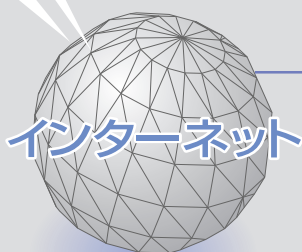
本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。



### 表示されない場合は

- DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。［登録の修正］をクリックして、「基本設定」画面で設定内容をもう1度確認してください。
- 本機のファイアウォール機能によって接続が制限されている場合もあります。［登録の修正］をクリックして、「基本設定」画面の「ファイアウォール機能の適用」欄でセキュリティレベルを変更してください。

セキュリティレベルを変更する場合の操作

# 第4章 フレッツ・ADSL 接続する

インターネット

フレッツ･ADSL接続は、一般回線の銅線を使い、NTTのネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。 PPPoE方式以外のADSL接続の場合は、「第3章 ADSL接続する」（43ページ）をご覧ください。

# フレッツ･ADSL 接続とは?

フレッツ･ADSL接続は、一般回線の銅線を使い、NTTのネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していて、以下の条件を満たしていれば利用できます。

**ご注意**

- 本機に接続するスプリッタやADSLモデムを別途ご用意いただく必要があります。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- ADSLの特性上、お住まいの地域によってはADSL接続が利用できない場合があります。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- ADSLでインターネットに接続する場合、本機をADSLの一般回線に直接接続することはできません。必ずADSLモデムに接続してください。



## 必要な条件

- お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していること。
- 電話局からお宅までの配線が、ADSL接続に対応していること（ADSL接続の可否は、NTTにご確認ください）。
- LAN接続のADSLモデムが使えること（USB接続のADSLモデムは不可）。
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

## 必要な契約

- 一般回線契約（71ページ）
- 「フレッツ･ADSL」契約（NTTと契約）
- 「フレッツ･ADSL接続（LAN接続タイプ）」契約（フレッツ･ADSL接続対応のプロバイダと契約）

### 設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID
- パスワード

# 回線契約についてのご注意

## ADSL接続をする場合は、一般回線（アナログ回線）が必要です。

一般回線をお使いの場合は、そのまま利用できます。すでにISDN回線をお使いの場合は、一般回線に戻すか、または一般回線を別途増設する必要があります。
また回線環境によっては、ADSL接続が利用できない場合もあります。利用の可否については、ADSL接続対応プロバイダにご相談の上、回線環境をご確認ください。

# 準備1

## ルータにADSL回線を接続する

ADSLで接続する場合は、本機のWANポートに以下の方法でADSLモデムを接続します。 ADSLモデムの設置は、ご自分で設置する場合と、業者が行う場合とがあります。 各業者の指示に従って設置してください。

**ご注意**

ADSLでインターネットに接続する場合、本機をADSL用の一般回線に直接接続することはできません。 必ず、ADSLモデム（ADSL回線）に接続してください。

# 接続する

**必要なもの**

LANケーブル:本機のWANポートとADSLモデムを接続します。
ADSLモデムの種類に合わせて、ストレートタイプまたはクロスタイプのLANケーブルをご用意ください（ADSLモデムに付属している場合もあります）。

**ご注意**

ADSLモデムとパソコンをストレートケーブルで接続するように指定されている場合は、ADSLモデムと本機のWANポートもストレートケーブルで接続します。 逆に、ADSLモデムとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、クロスケーブルで本機と接続してください。

ADSLモデムのLANポートと、本機のWANポートをLANケーブルで接続する。

# 準備2

# ルータに一般回線と電話機を接続する

前ページで接続したADSL回線に加えて、スプリッタで分割した電話機用の一般回線と電話機を本機に接続すると、本機に接続したアナログ電話機でインターネット電話機能を利用できるだけでなく、通常の通話も利用できるようになります。 電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器は、本機のTELポートに3台まで接続できます。 TEL1ポートは停電時にも通話できますので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

**ご注意**

- 一般回線（アナログ回線）を別途接続しない場合は、TELポート間の内線通話や本機のインターネット電話機能以外で、TELポートにアナログ機器（電話機、FAX、モデムなど）を接続して使うことはできません。
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。 分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。

**ヒント**

インターネット電話機能について詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「第6章 インターネット電話機能を使う」（62ページ）をご覧ください。

# 接続する

**必要なもの**

モジュラーケーブル:壁のモジュラージャックと本機のLINEポートを接続します。

## 1

スプリッタのADSL回線を接続していない方のモジュラージャックと本機のLINEポートを、モジュラーケーブルで接続する。

## 2

電話機を本機のTELポートに接続する。

## 準備3

# ルータにパソコンを接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。 本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。 5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

**4台までのパソコンを接続する場合の例**

**5台以上のパソコンを接続する場合の例**

**ご注意**

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。 設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

### 必要なもの

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。 本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

**Ⓐ パソコンを本機に直接接続する例**

本機のLANポートに接続します。

**Ⓑ 5台以上のパソコンを接続する例**

HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

**Ⓒ HUBにUPLINK(カスケード)ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は**

HUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続してください。

**ご注意**

HUBは10BASE-Tの場合4段(階層)まで、10/100BASE-TX混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

# 準備4

# 電源を接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ(P10V1.2A)をコンセントに接続します。

**ご注意**

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。 他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。 感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。 ガス管などには絶対に接続しないでください。

**必要なもの**

- **アースコード**:設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**:本機に付属のACアダプタ(P10V1.2A)をご使用ください。



## 1

**アース端子のネジを　ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。**

## 2

**付属のACアダプタ(P10V1.2A)のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。**

## 3

### アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

しばらくするとブザーが鳴り、本機の電源が入ります。

**ブザーが鳴らない場合は**

本機をお買い上げになった販売店にご連絡ください。

**ACアダプタを取りはずす際は**

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

## 4

### パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

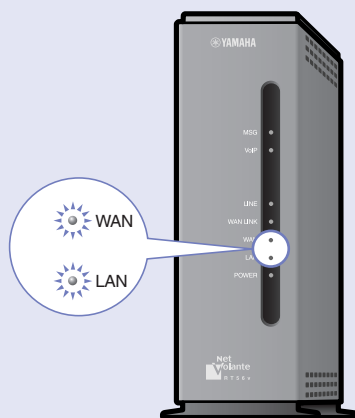
本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

**LANランプが点灯または点滅しない場合は**

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

**ご注意**

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、「準備6 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」(82ページ)および「準備7 パソコンのネットワーク設定を変更する」(84ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

## 準備5

# 電話回線に合わせて設定を変更する

「準備2 ルータに一般回線と電話機を接続する」（74ページ）で本機に接続した電話回線の種類に合わせて、TELポートに接続したプッシュボタン式電話機で本機の設定を変更します。

**ご注意**

- 電話機から設定するときは、必ず電話機をトーン（プッシュ）に切り替えてから操作してください。パルス（ダイヤル）方式だけでトーンの機能がない電話機からは、設定できません。
- 電話機から設定すると、設定内容は本機の内蔵メモリに保存されますので、本機の電源を切っても内容は消えません。

### 1

**本機の電源が入っていることを確認する。**

### 2

**TEL1ポートに接続した電話機の受話器を上げて、ツーという発信音を確認する。**

**ご注意**

TEL2、TEL3ポートに接続した電話機は、本機の電源を入れないと通話できません。

**発信音が聞こえない場合は**

以下のことを確認してください。

- 電話機が本機のTEL1ポートに正しく接続されていること
- 壁のモジュラージャックと本機のLINEポートが正しく接続されていること

### 3

**電話機のボタンを押して、お使いの回線の種類を指定する。**

- ダイヤル回線（10pps）の場合：＊ ＃ 2 0 1 1 ＃
- ダイヤル回線（20pps）の場合：＊ ＃ 2 0 1 2 ＃
- プッシュ回線の場合：＊ ＃ 2 0 1 3 ＃

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

**「ピー、ピー」と聞こえたときは**

設定内容が不適切だったり、設定が正常に変更されていません。
いったん受話器を置いて、もう1度手順2から操作をやり直してください。

**回線の種類がわからない場合は**

NTTとの電話回線契約書類をご覧ください。
それでもわからない場合は、NTTまでお問い合わせください(116)。

**4**

**試しに177などへ電話をかけてみる。**

**5**

**受話器を置いて、電話を切る。**

## ダイヤル回線をお使いの場合のご注意

電話機を使った設定やインターネット電話機能など、本機と電話機間はトーン(プッシュ)で信号がやり取りされます。そのため、停電などによって本機の電源供給が停止すると、トーン(プッシュ)回線用に動作するように設定された電話機がダイヤル回線と直結されることになります。この状態では、お使いの電話機によっては110や119などの緊急電話も含めて、外線通話できない場合があります。
お使いの電話機にダイヤル/トーン切り換えスイッチがある場合は、「ダイヤル」に切り換えて通話してください。

**ヒント**

電話機で電話番号をダイヤルする前に、常に「トーン」ボタン(通常は ⊛ ボタン)を押してからダイヤルするようにすることで、停電時の問題を回避できます。
「トーン」ボタンはお使いの電話機によって異なりますので、詳しくはお使いの電話機の取扱説明書をご覧ください。

準備6

# パソコンに付属ソフトウェアをインストールする

パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行うための「RT56vパソコンセットアップ」が、本機の付属CD-ROMに収録されています。
「RT56vパソコンセットアップ」は簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。
ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。

**ご注意**

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者（Administrators）でログインしてから、インストールを行ってください。

# Windows 95/98/Me/2000/XPの場合

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。 設定の前にインストールしてください。

**ご注意**

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］で削除（アンインストール）してください。

## 1

**付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、［InstPCSU］アイコンをダブルクリックする。**

CD-ROMの内容が自動で表示されない場合は、［マイコンピュータ］のCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

## 2

**画面の指示に従って操作する。**

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

## 3

**インストールが終わったら、［完了］をクリックする。**

これで、「RT56vパソコンセットアップ」のインストールは完了です。

**［完了］が表示されない場合は**

前面に表示されている画面を閉じるか、背景をクリックしてインストール画面を表示してください。

# MacOSの場合

付属のCD-ROMからRT56vパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

**ご注意**

ユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降（MacOS X（Classic環境を含む）には対応していません。）
- OpenTransport1.2以降

## 準備7

# パソコンのネットワーク設定を変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。 インストールした「RT56vパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。
複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

**ご注意**

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降（Mac OS Xを除く）の環境で、RT56vパソコンセットアップを使って設定するためのものです。 上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください（124ページ）。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。 正しく動作していないと、設定が行えません。 正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。 設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RT56vパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。 その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください（124ページ）。

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。 他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

## 1

### RT56vパソコンセットアップを起動する。

**ⒶWindows95/98/Me/2000/XPの場合**

［スタート］ボタンをクリックして、［プログラム］－［RT56vユーティリティ］－［RT56vパソコンセットアップ］をクリックする。

Ⓐ

**ⒷMacintoshの場合**

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、［ユーティリティ］－［RT56vパソコンセットアップ］フォルダ内の、［パソコンセットアップ］アイコンをダブルクリックする。

Ⓑ

## 2

### ［次へ］をクリックする。

## 3

### メッセージの内容を確認してから、［次へ］をクリックする。

次のページにつづく→

## 4

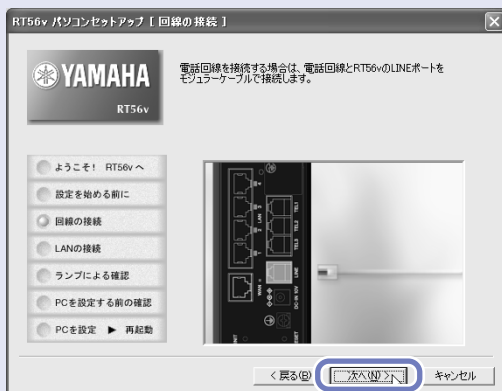
**プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、[次へ]をクリックする。**

## 5

**ADSLモデムの電源が入っていることを確認してから、[次へ]をクリックする。**

## 6

**本機のLINEポートに一般回線(アナログ回線)のモジュラーケーブルが接続されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。**

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備2 ルータに一般回線と電話機を接続する」(74ページ)をご覧ください。

## 7

### 本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備3 ルータにパソコンを接続する」(76ページ)をご覧ください。

## 8

### 本機の電源やランプの表示を確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

## 9

### 設定内容を確認してから、[次へ]をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS(Windows、MacOS)のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。

次のページにつづく→

## 10

**再起動のメッセージが表示された場合は、［再起動］をクリックする。**

パソコンが再起動します。

## 11

**「RT56vと接続」画面が表示されたら、［開く］をクリックする。**

Webブラウザが自動的に起動して、「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。

### 2台目以降のパソコンを設定している場合は

「RT56vと接続」が表示されたら、［中止］をクリックします。

# インターネットに接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で接続先を設定して、インターネットに接続します。

## 設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」（別冊）の「第5章 ファイアウォール機能を使う」（47ページ）をご覧ください。

### プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID（アカウント名）
- パスワード

### Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します（お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます）。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

**Windows95/98/Me/2000/XPの場合**

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0以降を除く）のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

ご注意

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

**MacOSの場合**

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0を除く）のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

# 設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。 他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RT56vパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。

## 1

**本機の電源が入っていることを確認する。**

## 2

**パソコンでWebブラウザを起動して、［ファイル］メニューから［開く］を選ぶ。**

## 3

**「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、［OK］をクリックする。**

初めて開いたときは、「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2度目以降は、手順5へ進んでください。

**ヒント**

「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。

## 4

**好みのパスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから［OK］をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。**

パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください
（例：RT56v000、yamaha56など）。

**ご注意**

- 入力したパスワードが本機の管理パスワードになります。 本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要ですので、プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。
- 本機のパスワードについて詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「ルータのパスワードについて」（26ページ）をご覧ください。

## 5

［ユーザー名］欄を空欄にしたまま、手順4で入力したパスワードを［パスワード］欄に入力して、［OK］をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

## 6

［新規登録］をクリックする。

## 7

［フレッツ・ADSLなどのPPPoEを使用したADSL接続設定］を選んでから、［次へ］をクリックする。

次のページにつづく→

## 8

### プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

#### プロバイダ名

接続先がわかるような名前を自由に入力してください。省略することもできます。

#### ユーザID

プロバイダから指定されたフレッツ･ADSL接続用のユーザIDを入力します。必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

**ご注意**

プロバイダによっては、ユーザIDだけが書類に記載されている場合があります。その場合でも、ユーザIDの後ろに@を付けて、指定されたドメイン名を追加してください。

例）username@provider.ne.jp
username@aaa.provider.ne.jp
（サブドメインが付加される場合）

#### パスワード

プロバイダから指定されたパスワードを入力します。必ず書類を確認して、半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。

#### 接続方式

フレッツ･ADSLの使いかたを選びます。

- **自動切断する:**必要に応じて接続したい場合に選びます。
- **常時接続する:**常に接続したままにしたい場合に選びます。

#### DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選びます。
- **接続時に自動取得する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合に選びます。

#### プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

#### セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します（省略できます）。

## 9

### 入力が終わったら、［登録］をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。

## 10

［プロバイダ接続管理］をクリックする。

## 11

登録したプロバイダの［接続］をクリックして、手動接続してみる。

**［接続］をクリックしたら、左側に「接続中」が表示されたときは**

本機は正しく設定され、インターネットに接続しています。インターネット接続中は、本機のWAN LINKランプが点灯します。

**「接続中」が表示されないときは**

ユーザIDやパスワードの設定が間違っている可能性があります。

［登録の修正］をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードの大文字／小文字や全角／半角に注意して入力し直してから、もう1度手動接続を行ってください。

次のページにつづく→

## 12

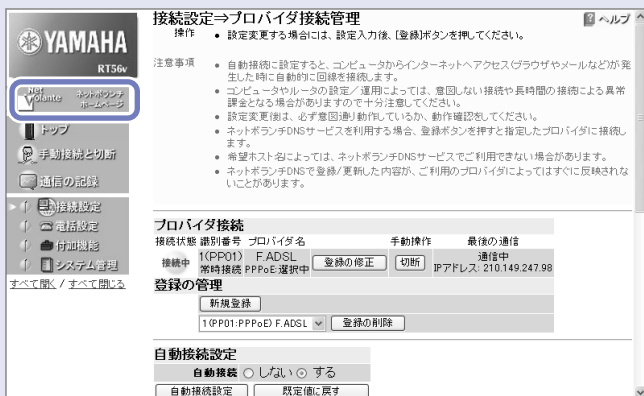
### 画面左上の［ネットボランチホームページ］をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されます。

**表示されない場合は**

DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

［登録の修正］をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。

## 13

### 接続できることを確認できたら、Webブラウザの［戻る］をクリックして「プロバイダ接続管理」画面に戻る。

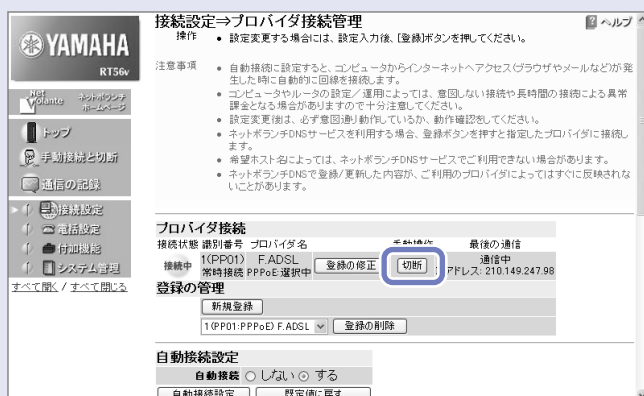
接続方式で［自動切断する］を選んでいる場合は、登録したプロバイダの［切断］をクリックして手動切断してください。

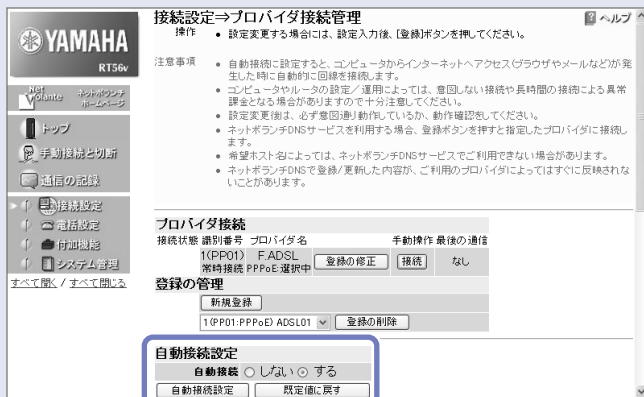
**接続方法で［自動切断する］を設定した場合は**

手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

**ヒント**

フレッツ·ADSLは定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。

## 14

### ［自動接続設定］が［する］になっていて、［自動接続先］に登録したプロバイダが選ばれていることを確認する。

これで、ルータのフレッツ·ADSL接続設定は完了です。

# インターネット接続を開始する

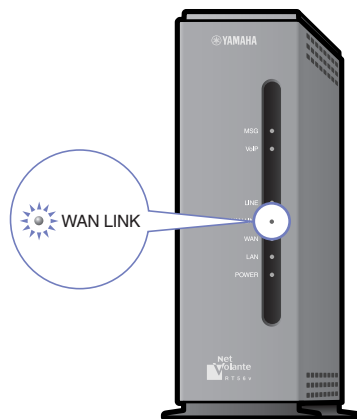
**本機はインターネットへ自動的に接続します**

本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。通常は、パソコンでホームページを閲覧したり、新着メールを確認するだけで、自動的に接続／切断できます。

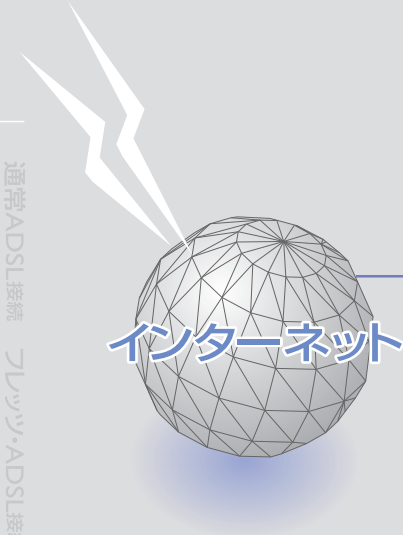
インターネットに接続しているときは、WAN LINKランプが点灯します。

## インターネット接続を終了する

本機はインターネットへの接続を自動的に切断します。切断されると、WAN LINKランプが消灯します。

**ヒント**

「かんたん設定ページ」を使って、LAN内から一定時間インターネットへのアクセスがない場合に、自動切断するように設定できます。また、自動切断しないように設定する（常時接続する）ように設定することもできます。

詳しくは、活用マニュアル（別冊）の「自動切断しないように設定する」（88ページ）をご覧ください。

# 第5章 Bフレッツ 接続する

Bフレッツ接続は光ファイバを使い、NTTのネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。

# Bフレッツ接続とは?

Bフレッツ接続は光ファイバを使い、NTTのネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域が光ファイバの敷設地域で、以下の条件を満たしていれば利用できます。

**ご注意**

- 本機に接続するONU（Optical Network Unit、光ネットワークユニット）を別途ご用意いただく必要があります。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- 光ファイバの特性上、お住まいの地域によってはBフレッツ接続が利用できない場合があります。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- 光ファイバでインターネットに接続する場合、本機を光ファイバの回線に直接接続することはできません。必ずONUに接続してください。

## 必要な条件

- お住まいの地域が光ファイバの敷設地域であること。
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

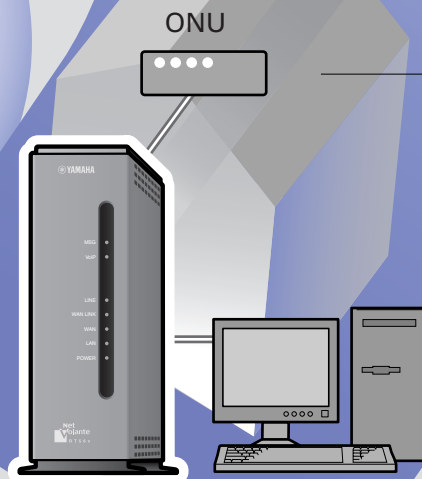
## 必要な契約

- 「Bフレッツ」契約（NTTと契約）
- 「Bフレッツ接続」契約（Bフレッツ接続対応のプロバイダと契約）



## 設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

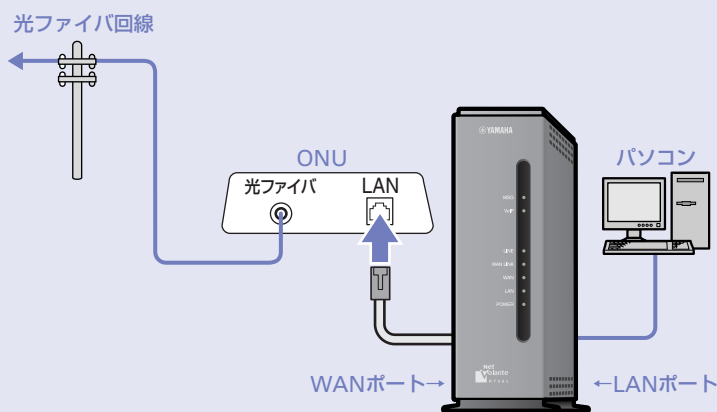
- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID
- パスワード

インターネット
NTT
プロバイダ
NTT
NTTネットワーク
電話局
光ファイバ回線
（Bフレッツ）
本機設置場所

## 準備1

# ルータに光ファイバ回線を接続する

光ファイバ回線に接続する場合は、本機のWANポートに以下の方法でONUを接続します。 ONUの設置は、ご自分で設置する場合と、業者が行う場合とがあります。 各業者の指示に従って設置してください。

**ご注意**

光ファイバでインターネットに接続する場合、本機を光ファイバの回線に直接接続することはできません。 必ずONUに接続してください。

# 接続する

**必要なもの**

LANケーブル:本機のWANポートとONUを接続します。
ONUの種類に合わせて、ストレートタイプまたはクロスタイプのLANケーブルをご用意ください（ONUに付属している場合もあります）。

**ご注意**

ONUとパソコンをストレートケーブルで接続するように指定されている場合は、ONUと本機のWANポートもストレートケーブルで接続します。逆に、ONUとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、クロスケーブルで本機と接続してください。

ONUのLANポートと、本機のWANポートをLANケーブルで接続する。

## 準備2

# ルータに一般回線と電話機を接続する

一般回線（アナログ回線）と電話機を本機に接続すると、本機に接続したアナログ電話機でインターネット電話機能を利用できるだけでなく、通常の通話も利用できるようになります。 電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器は、本機のTELポートに3台まで接続できます。 TEL1ポートは停電時にも通話できますので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

**ご注意**

- 一般回線（アナログ回線）を別途接続しない場合は、TELポート間の内線通話や本機のインターネット電話機能以外で、TELポートにアナログ機器（電話機、FAX、モデムなど）を接続して使うことはできません。
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。 分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。

**ヒント**

インターネット電話機能について詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「第6章 インターネット電話機能を使う」（62ページ）をご覧ください。

**必要なもの**

モジュラーケーブル:壁のモジュラージャックと本機のLINEポートを接続します。



### 1

**壁のモジュラージャックと本機のLINEポートを、モジュラーケーブルで接続する。**

### 2

**電話機を本機のTELポートに接続する。**

準備3

# ルータにパソコンを接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。 本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。 5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

**4台までのパソコンを接続する場合の例**

**5台以上のパソコンを接続する場合の例**

**ご注意**

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。 設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

**必要なもの**

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。 本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

**Ⓐ パソコンを本機に直接接続する例**

本機のLANポートに接続します。

**Ⓑ 5台以上のパソコンを接続する例**

HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

**Ⓒ HUBにUPLINK(カスケード)ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は**

HUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続してください。

**ご注意**

HUBは10BASE-Tの場合4段(階層)まで、10/100BASE-TX混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

## 準備4

# 電源を接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ（P10V1.2A）をコンセントに接続します。

**ご注意**

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。 他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。 感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。 ガス管などには絶対に接続しないでください。

**必要なもの**

- **アースコード**:設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**:本機に付属のACアダプタ（P10V1.2A）をご使用ください。

**1**

**アース端子のネジを　ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。**

**2**

**付属のACアダプタ（P10V1.2A）のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。**

次のページにつづく→

## 3

### アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

しばらくするとブザーが鳴り、本機の電源が入ります。

**ブザーが鳴らない場合は**

本機をお買い上げになった販売店にご連絡ください。

**ACアダプタを取りはずす際は**

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

## 4

### パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

**LANランプが点灯または点滅しない場合は**

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

**ご注意**

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。 その場合は、「準備6 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」(109ページ)および「準備7 パソコンのネットワーク設定を変更する」(111ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

準備5

# 電話回線に合わせて設定を変更する

「準備2 ルータに一般回線と電話機を接続する」(102ページ)で本機に接続した電話回線の種類に合わせて、TELポートに接続したプッシュボタン式電話機で本機の設定を変更します。

ご注意

- 電話機から設定するときは、必ず電話機をトーン(プッシュ)に切り替えてから操作してください。パルス(ダイヤル)方式だけでトーンの機能がない電話機からは、設定できません。
- 電話機から設定すると、設定内容は本機の内蔵メモリに保存されますので、本機の電源を切っても内容は消えません。

## 1

**本機の電源が入っていることを確認する。**

## 2

**TEL1ポートに接続した電話機の受話器を上げて、ツーという発信音を確認する。**

ご注意

TEL2、TEL3ポートに接続した電話機は、本機の電源を入れないと通話できません。

**発信音が聞こえない場合は**

以下のことを確認してください。

- 電話機が本機のTEL1ポートに正しく接続されていること
- 壁のモジュラージャックと本機のLINEポートが正しく接続されていること

## 3

**電話機のボタンを押して、お使いの回線の種類を指定する。**

- ダイヤル回線(10pps)の場合: ＊ # 2 0 1 1 #
- ダイヤル回線(20pps)の場合: ＊ # 2 0 1 2 #
- プッシュ回線の場合: ＊ # 2 0 1 3 #

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

次のページにつづく→

**「ピー、ピー」と聞こえたときは**

設定内容が不適切だったり、設定が正常に変更されていません。
いったん受話器を置いて、もう1度手順2から操作をやり直してください。

**回線の種類がわからない場合は**

NTTとの電話回線契約書類をご覧ください。
それでもわからない場合は、NTTまでお問い合わせください(116)。

**4**

**試しに177などへ電話をかけてみる。**

**5**

**受話器を置いて、電話を切る。**



## ダイヤル回線をお使いの場合のご注意

電話機を使った設定やインターネット電話機能など、本機と電話機間はトーン(プッシュ)で信号がやり取りされます。 そのため、停電などによって本機の電源供給が停止すると、トーン(プッシュ)回線用に動作するように設定された電話機がダイヤル回線と直結されることになります。この状態では、お使いの電話機によっては110や119などの緊急電話も含めて、外線通話できない場合があります。
お使いの電話機にダイヤル/トーン切り換えスイッチがある場合は、「ダイヤル」に切り換えて通話してください。

**ヒント**

電話機で電話番号をダイヤルする前に、常に「トーン」ボタン(通常は  ボタン)を押してからダイヤルするようにすることで、停電時の問題を回避できます。
「トーン」ボタンはお使いの電話機によって異なりますので、詳しくはお使いの電話機の取扱説明書をご覧ください。

## 準備6

# パソコンに付属ソフトウェアをインストールする

パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行うための「RT56vパソコンセットアップ」が、本機の付属CD-ROMに収録されています。
「RT56vパソコンセットアップ」は簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。
ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。

**ご注意**

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者（Administrators）でログインしてから、インストールを行ってください。

# Windows 95/98/Me/2000/XPの場合

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。 設定の前にインストールしてください。

**ご注意**

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの［アプリケーションの追加と削除］で削除（アンインストール）してください。

## 1

**付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、［InstPCSU］アイコンをダブルクリックする。**

CD-ROMの内容が自動で表示されない場合は、［マイコンピュータ］のCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

## 2

**画面の指示に従って操作する。**

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

## 3

**インストールが終わったら、［完了］をクリックする。**

これで、「RT56vパソコンセットアップ」のインストールは完了です。

 **［完了］が表示されない場合は**

前面に表示されている画面を閉じるか、背景をクリックしてインストール画面を表示してください。

# MacOSの場合

付属のCD-ROMからRT56vパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

**ご注意**

ユーティリティソフトウェア「RT56vパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降（MacOS X（Classic環境を含む）には対応していません。）
- OpenTransport1.2以降

## 準備7

# パソコンのネットワーク設定を変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。 インストールした「RT56vパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。

複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

**ご注意**

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降（Mac OS Xを除く）の環境で、RT56vパソコンセットアップを使って設定するためのものです。 上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください（124ページ）。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。 正しく動作していないと、設定が行えません。 正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。 設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RT56vパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。 その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください（124ページ）。

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。 他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

## 1

RT56vパソコンセットアップを起動する。

### ⒶWindows95/98/Me/2000/XPの場合

［スタート］ボタンをクリックして、［プログラム］－［RT56vユーティリティ］－［RT56vパソコンセットアップ］をクリックする。

### ⒷMacintoshの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、［ユーティリティ］－［RT56vパソコンセットアップ］フォルダ内の、［パソコンセットアップ］アイコンをダブルクリックする。

## 2

［次へ］をクリックする。

## 3

メッセージの内容を確認してから、［次へ］をクリックする。

## 4

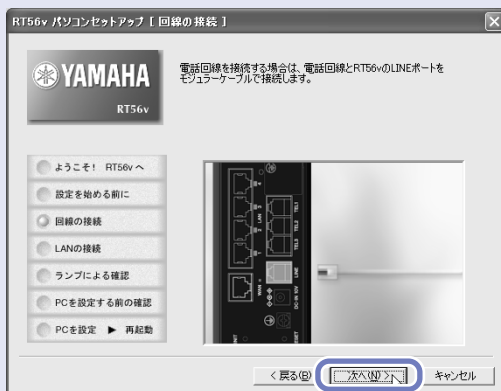
**プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、[次へ]をクリックする。**

## 5

**ONUの電源が入っていることを確認してから、[次へ]をクリックする。**

## 6

**本機のLINEポートに一般回線(アナログ回線)のモジュラーケーブルが接続されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。**

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備2 ルータに一般回線と電話機を接続する」(102ページ)をご覧ください。

次のページにつづく→

## 7

### 本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備3 ルータにパソコンを接続する」(103ページ)をご覧ください。

## 8

### 本機の電源やランプの表示を確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

## 9

### 設定内容を確認してから、[次へ]をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS(Windows、MacOS)のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。

## 10

**再起動のメッセージが表示された場合は、[再起動]をクリックする。**

パソコンが再起動します。

## 11

**「RT56vと接続」画面が表示されたら、[開く]をクリックする。**

Webブラウザが自動的に起動して、「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。

### 2台目以降のパソコンを設定している場合は

「RT56vと接続」が表示されたら、[中止]をクリックします。

# インターネットに接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で接続先を設定して、インターネットに接続します。

## 設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」(別冊)の「第5章 ファイアウォール機能を使う」(47ページ)をご覧ください。

### プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス(DNSサーバアドレス)
- ユーザID(アカウント名)
- パスワード

### Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します(お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます)。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

**Windows95/98/Me/2000/XPの場合**

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降(6.0以降を除く)のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

ご注意

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

**MacOSの場合**

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降(6.0を除く)のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

# 設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。 他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RT56vパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。

## 1

**本機の電源が入っていることを確認する。**

## 2

**パソコンでWebブラウザを起動して、［ファイル］メニューから［開く］を選ぶ。**

## 3

**「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、［OK］をクリックする。**

初めて開いたときは、「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2度目以降は、手順5へ進んでください。

**ヒント**

「RT56vかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。

## 4

**好みのパスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから［OK］をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。**

パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください

（例：RT56v000、yamaha56など）。

**ご注意**

- 入力したパスワードが本機の管理パスワードになります。 本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要ですので、プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。
- 本機のパスワードについて詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「ルータのパスワードについて」（26ページ）をご覧ください。

次のページにつづく→

5

［ユーザー名］欄を空欄にしたまま、手順4で入力したパスワードを［パスワード］欄に入力して、［OK］をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

6

［新規登録］をクリックする。

7

［フレッツ・ADSLなどのPPPoEを使用したADSL接続設定］を選んでから、［次へ］をクリックする。

# 8

## プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

接続設定⇒新規登録⇒PPPoE(WANポート)によるプロバイダ接続 ヘルプ

操作
- パスワードの... 入力されていると文字数に関係なく"*"(asterisk,アスタリスク文字)の1文字で表示されます。
- パスワードをクリアする場合は、"*"(asterisk,アスタリスク文字)の1文字を削除して登録します。
- 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

プロバイダ情報

| | | |
|---|---|---|
| プロバイダ名(PP01) | BFlets | 半角32文字以内(省略可能) |
| ユーザID | (例) xxx@***.**.jp(@以降はプロバイダによって異なります) username@provider.ne.jp | 半角入力64文字以内 |
| パスワード | •••••••• | 半角入力64文字以内 |

接続方式

| | | |
|---|---|---|
| 接続方式 | (自動切断タイマとセキュリティ・フィルタの初期設定) ◉ 自動切断する ○ 常時接続する(自動切断しない,手動切断のみ) | |

DNS関連

| | | |
|---|---|---|
| DNSサーバアドレス | IPアドレスを指定する | |
| プライマリDNSサーバアドレス | 00.00.00.00 | 指定する場合半角入力 |
| セカンダリDNSサーバアドレス | 00.00.00.00 | (省略可能) |

[登録] [既定値に戻す]

### プロバイダ名

接続先がわかるような名前を自由に入力してください。省略することもできます。

### ユーザID

プロバイダから指定されたBフレッツ接続用のユーザIDを入力します。必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

**ご注意**

プロバイダによっては、ユーザIDだけが書類に記載されている場合があります。その場合でも、ユーザIDの後ろに@を付けて、指定されたドメイン名を追加してください。

例）username@provider.ne.jp
username@aaa.provider.ne.jp
（サブドメインが付加される場合）

### パスワード

プロバイダから指定されたパスワードを入力します。必ず書類を確認して、半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。

### 接続方式

Bフレッツの使いかたを選びます。

- **自動切断する:**必要に応じて接続したい場合に選びます。
- **常時接続する:**常に接続したままにしたい場合に選びます。

### DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選びます。
- **接続時に自動取得する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合に選びます。

### プライマリDNSサーバアドレス

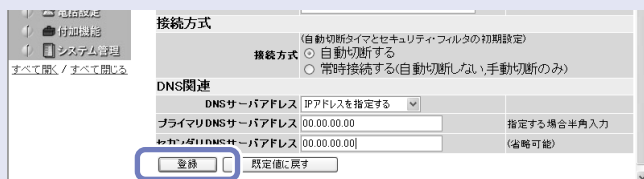
DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

### セカンダリDNSサーバアドレス

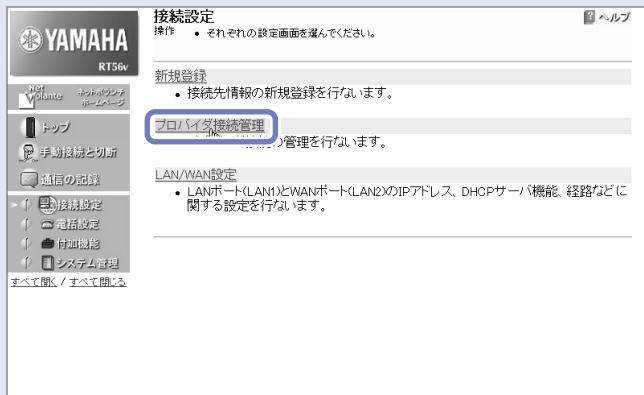
DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します（省略できます）。

# 9

## 入力が終わったら、［登録］をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。

次のページにつづく→

## 10

［プロバイダ接続管理］をクリックする。

## 11

登録したプロバイダの［接続］をクリックして、手動接続してみる。

**［接続］をクリックしたら、左側に「接続中」が表示されたときは**

本機は正しく設定され、インターネットに接続しています。インターネット接続中は、本機のWAN LINKランプが点灯します。

**「接続中」が表示されないときは**

ユーザIDやパスワードの設定が間違っている可能性があります。

［登録の修正］をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードの大文字／小文字や全角／半角に注意して入力し直してから、もう1度手動接続を行ってください。

## 12

### 画面左上の［ネットボランチホームページ］をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されます。

**表示されない場合は**

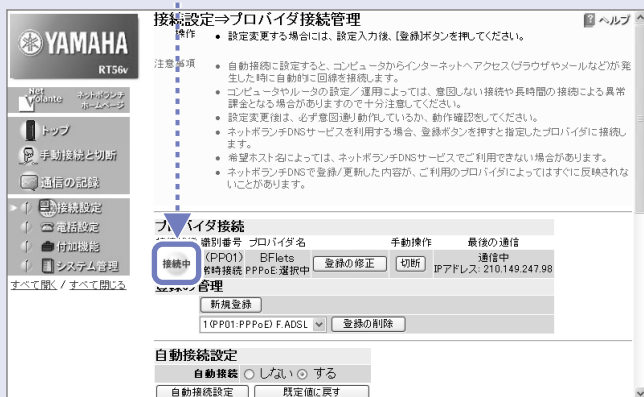
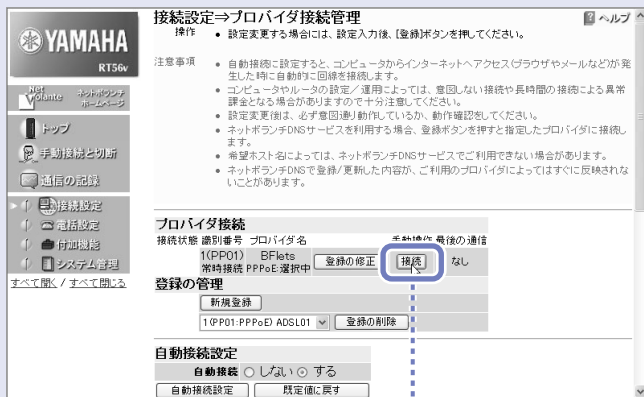
DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

［登録の修正］をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。

## 13

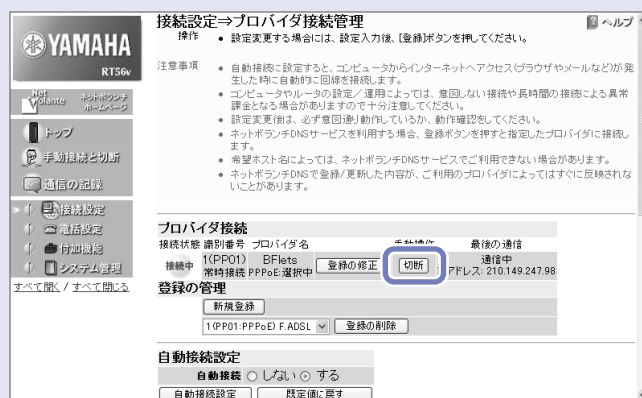
### 接続できることを確認できたら、Webブラウザの［戻る］をクリックして「プロバイダ接続管理」画面に戻る。

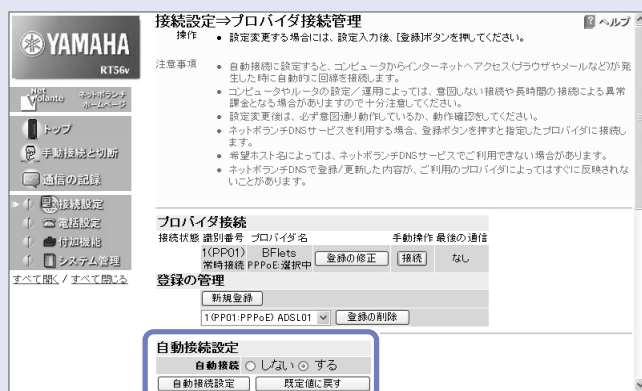
接続方式で［自動切断する］を選んでいる場合は、登録したプロバイダの［切断］をクリックして手動切断してください。

**接続方法で［自動切断する］を設定した場合は**

手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

**ヒント**

Bフレッツは定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。

## 14

### ［自動接続設定］が［する］になっていて、［自動接続先］に登録したプロバイダが選ばれていることを確認する。

これで、ルータのBフレッツ接続設定は完了です。

第5章 Bフレッツ接続する

# インターネット接続を開始する

**本機はインターネットへ自動的に接続します**

本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。通常は、パソコンでホームページを閲覧したり、新着メールを確認するだけで、自動的に接続／切断できます。

インターネットに接続しているときは、WAN LINKランプが点灯します。

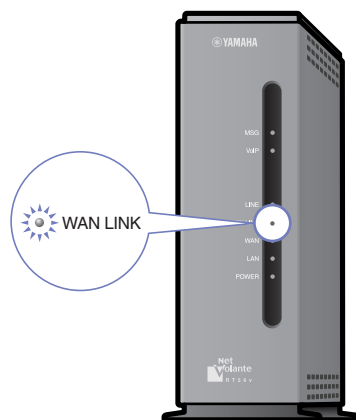
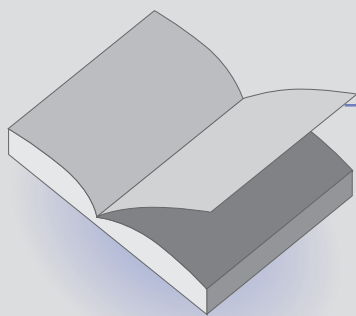
## インターネット接続を終了する

本機はインターネットへの接続を自動的に切断します。切断されると、WAN LINKランプが消灯します。

**ヒント**

「かんたん設定ページ」を使って、LAN内から一定時間インターネットへのアクセスがない場合に、自動切断するように設定できます。また、自動切断しないように設定する（常時接続する）ように設定することもできます。

詳しくは、活用マニュアル（別冊）の「自動切断しないように設定する」（88ページ）をご覧ください。

Other Information

この章では、以下の操作や情報について説明します。

- 手動でネットワーク設定を変更する
- 本機を使いこなすために

# 手動でネットワーク設定を変更する

付属のRT56vパソコンセットアップが正しく動作しない場合は、手動でネットワーク機能の設定を変更する必要があります。 ネットワーク機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

## Windows 95/98/Meの場合

Windows 95/98/Meの場合は、次の手順でネットワーク設定を変更します。 LANボードやLANカードが装着されていないときは、あらかじめLANボードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。

**ご注意**

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。 正しく動作していないと、設定が行えません。 正しく動作していない場合は、あらかじめボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。



**1**

**［スタート］ボタンをクリックして、［設定］－［コントロールパネル］をクリックする。**

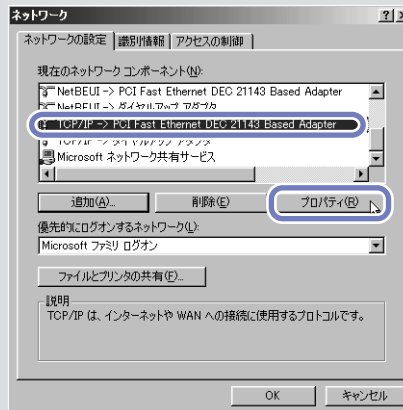
**2**

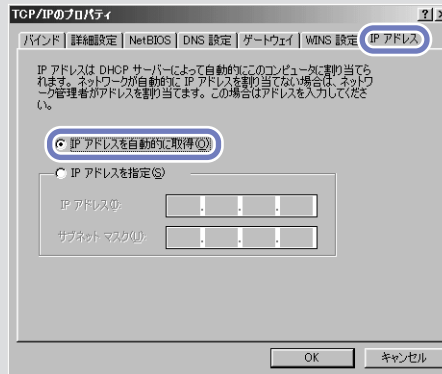
**［ネットワーク］アイコンをダブルクリックして、リストに「TCP/IP–>（ネットワークボード名）」が表示されているかどうか確認する。**

**「TCP/IP–>（ネットワークボード名）」が表示されていない場合は**

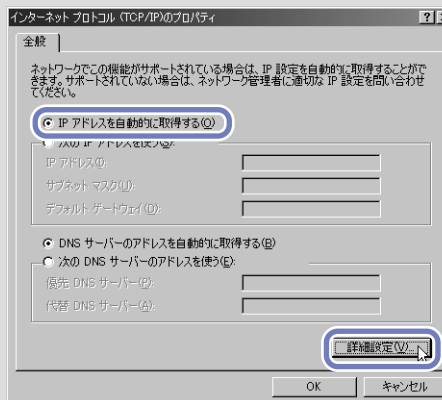
［追加］をクリックして、［プロトコル］の追加からMicrosoftの［TCP/IP］をクリックして、追加してください。

# 3

［ TCP/IP–>（ネットワークボード名）］を選んでから、［プロパティ］をクリックする。

# 4

［IPアドレス］タブをクリックしてから［IPアドレスを自動的に取得］を選び、［OK］をクリックする。

# 5

［OK］をクリックする。

設定を変更した場合は、パソコンを再起動してください。

# Windows 2000の場合

Windows2000の場合は、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。 LANボードやLANカードが装着されていないときは、先にLANボードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。 Windows2000のネットワーク設定を行うには、管理者(Administrators)グループの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

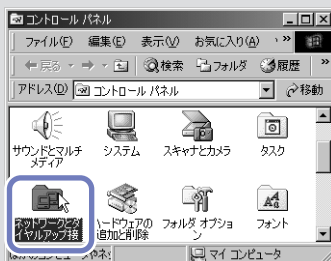
**ご注意**

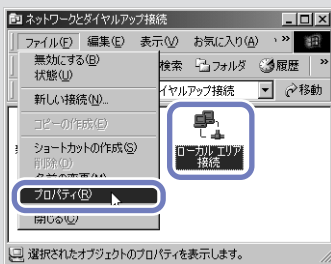
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。 正しく動作していないと、設定が行えません。 正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

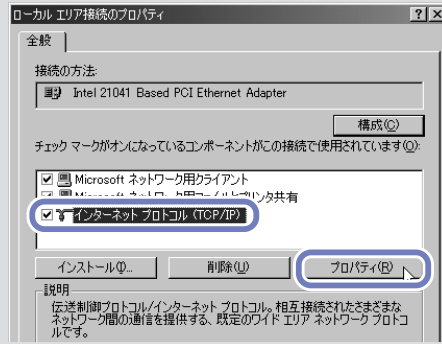
**1**

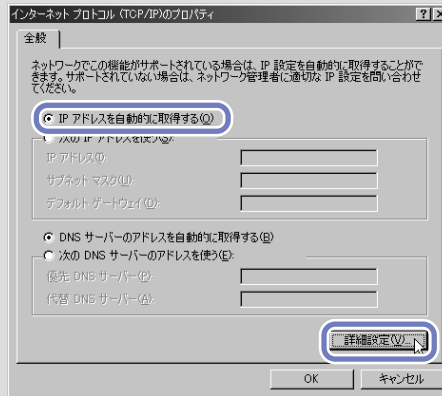
［スタート］ボタンをクリックして、［設定］－［コントロールパネル］をクリックする。

**2**

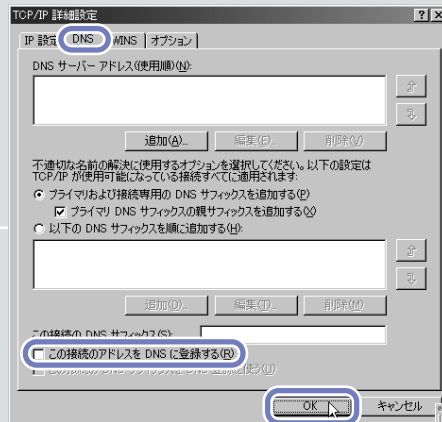
［ネットワークとダイヤルアップ接続］をダブルクリックする。

**3**

本機を接続しているネットワークボード名の［ローカルエリア接続］をクリックして選んでから、［ファイル］メニューから［プロパティ］を選ぶ。

## 4

リストの［インターネットプロトコル（TCP/IP）］を選んでから、［プロパティ］をクリックする。

## 5

［IPアドレスを自動的に取得する］を選んでから、［詳細設定］をクリックする。

## 6

［DNS］タブをクリックしてから［この接続のアドレスをDNSに登録する］のチェックを外し、［OK］をクリックする。

［TCP/IP詳細設定］画面が閉じます。

## 7

［OK］を何回かクリックして、「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面と「ローカルエリア接続のプロパティ」画面を閉じる。

設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

# WindowsXPの場合

WindowsXPの場合は、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。 LANボードやLANカードが装着されていないときは、先にLANボードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。
WindowsXPのネットワーク設定を行うには、管理者（Administrators）グループの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

**ご注意**

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。 削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。 正しく動作していないと、設定が行えません。 正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

## 1

［スタート］ボタンをクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。

## 2

［ネットワークとインターネット接続］をクリックする。

## 3

［ネットワーク接続］をクリックする。

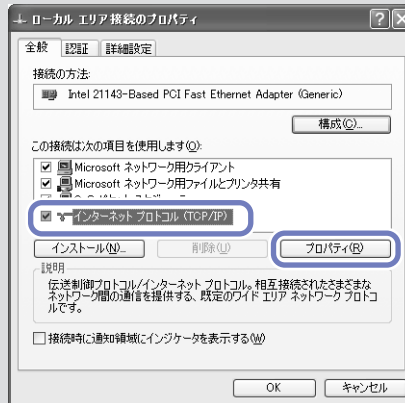
## 4

［ローカルエリア接続］のアイコンをクリックする。

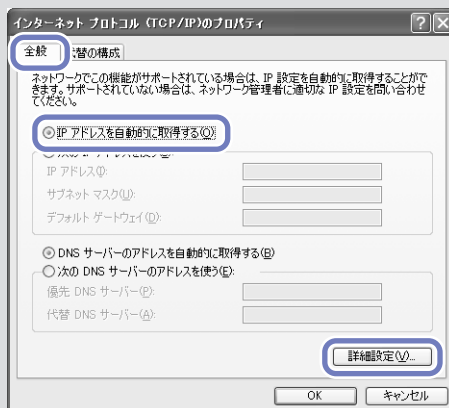
## 5

［この接続の設定を変更する］をクリックする。

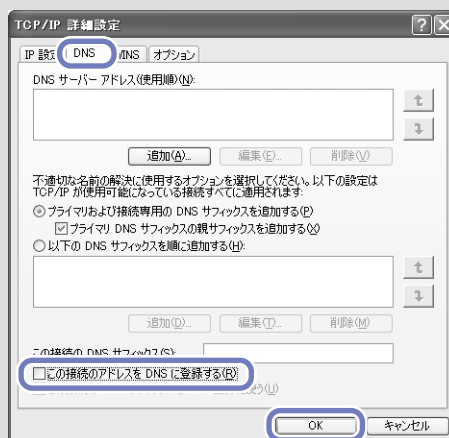
## 6

［ インターネットプロトコル(TCP/IP)］を選んでから、［プロパティ］をクリックする。

次のページにつづく→

## 7

**［全般］タブをクリックして［IPアドレスを自動的に取得する］を選んでから、［詳細設定］をクリックする。**

## 8

**［DNS］タブをクリックしてから［この接続のアドレスをDNSに登録する］のチェックを外し、［OK］をクリックする。**

［TCP/IP詳細設定］画面が閉じます。

## 9

**［OK］を何回かクリックして、「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面と「ローカルエリア接続のプロパティ」画面を閉じる。**

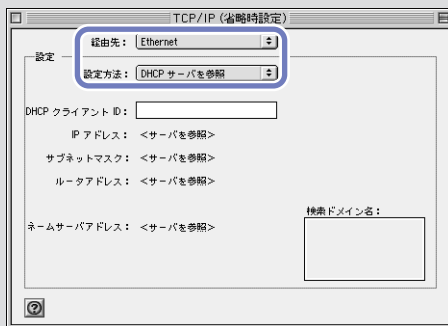
設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

# Mac OS 8.x〜9.xの場合

MacOSでは、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。 ネットワーク機能の設定の変更は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。
ここでは、［TCP/IP］コントロールパネルを例に説明します。

**1**

**アップルメニューから［コントロールパネル］－［TCP/IP］を選び、以下のように設定する。**

- **経由先:**Ethernet
- **設定方法:**DHCPサーバを参照

**2**

**設定が終わったら、［ファイル］メニューから［終了］を選ぶ。**

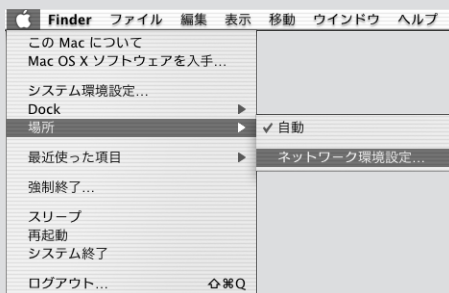
**3**

**［保存する］をクリックする。**

# Mac OS Xの場合

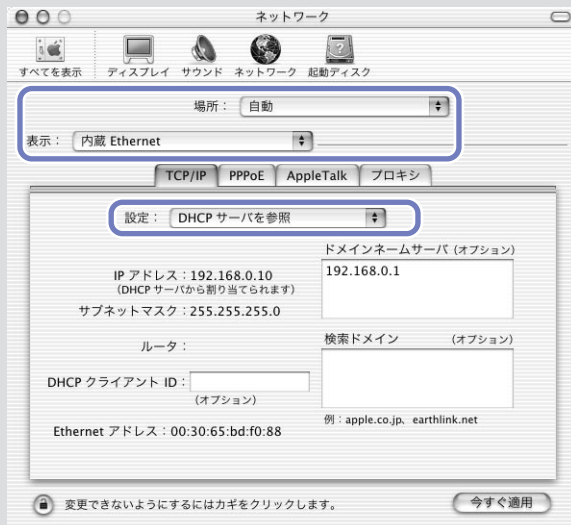
MacOS Xでは、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。 ネットワーク機能の設定の変更は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

## 1

**アップルメニューから[場所]-[ネットワーク環境設定]を選ぶ。**

## 2

**以下のように設定してから、[保存]をクリックする。**

- **場所:**自動
- **設定:**内蔵Ethernet(標準のLANポート使用時のみ)
- **設定:**DHCPサーバを参照

設定後は、[IPアドレス]がルータに設定したDHCPの割り当て範囲(工場出荷状態では192.168.0.2~192.168.0.191)になっていることを確認してください。

# 本機を使いこなすために

## 本機の主な機能については

別冊の「活用マニュアル」をご覧ください。 詳細な設定をするための情報が必要な場合は、PDF形式の「コマンドリファレンス」もあわせてご覧ください。

## 本機を使用中に問題が発生した場合は

別冊の「困ったときは」をご覧ください。
以下の問題などを解決する方法が記載されています。

- 電話やFAXが使えない
- かんたん設定ページで設定できない
- インターネットに接続できない
- パスワードを忘れてしまったときは

## 本機の最新情報を入手するには

本機に関する最新情報は、インターネットのホームページで入手できます。 設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

- **NetVolanteシリーズのホームページ:**本機やNetVolanteシリーズに関する最新情報をご覧いただけます。
  http://NetVolante.jp/
- **NetVolanteシリーズでお問い合わせの多い質問(FAQ):**本機やNetVolanteシリーズに関するQ&Aをご覧いただけます。 ネットボランチのホームページ(http://NetVolante.jp/)から、必要な情報を入手してください。
- **NetVolanteシリーズのリビジョンアップ情報:**本機やNetVolanteシリーズの最新ファームウェアに関する情報をご覧いただけます。 ネットボランチのホームページ(http://NetVolante.jp/)から、必要な情報を入手してください。
- **RTシリーズのホームページ:**RTシリーズのルータに関する最新情報やルータの技術情報、高度な利用方法などをご覧いただけます。
  http://www.rtpro.yamaha.co.jp/

## ご質問/お問い合わせは

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

**RT56v専用サービス窓口(ネットボランチコールセンター)**
TEL:03-5715-0350(土日祝日を除く9 時～12 時、13 時～17 時)

**ADSLルータ専用お客様窓口**
TEL:03-5715-3575(土日祝日を除く9 時～12 時、13 時～17 時)

**電子メールでのお問い合わせ**

- **Webお問い合わせページ**: http://NetVolante.jp/
- **メールアドレス**: support@netvolante.jp